

医学研究科修士課程

履 修 案 内

(教 育 要 項)

2020年度

慶應義塾大学大学院

塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

1. 義塾が取り扱う学生等（卒業後を含みます。）の個人情報の具体的な内容は、次のとおりです。
 - ① 塾生ないし塾員本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
 - ② 保護者・保証人の氏名・住所・電話番号（自宅および緊急連絡先）・塾生ないし塾員本人との続柄等
 - ③ 塾生ないし塾員の学籍・成績・健康診断・在学中のその他の活動履歴情報、寄付金・慶應カードの申し込みデータなど
2. 個人情報を取り扱うに当たっては、あらかじめ利用目的を特定し、明示いたします。特定した利用目的以外には利用しません。また、利用目的を変更する場合は、本人に通知するか、義塾のホームページへの掲載、所定掲示板への掲示等により公表いたします。
3. 個人情報は、以下の諸業務を遂行するために利用します。
 - ① 入学手続および学事に関する事務の処理、連絡および手続
 - ② 学生生活全般に関する事務の処理、連絡および手続
 - ③ 大学内の施設・設備利用に関する事務の処理、連絡および手続
 - ④ 寄付金・維持会・慶應カードの募集および評議員選挙等に関する書類ならびに義塾が発行する刊行物の発送
 - ⑤ 塾生ないし塾員本人および保護者・保証人に送付する各種書類の発送および諸連絡
 - ⑥ 上記①から⑤までに付随する事項
4. 上記3の業務のうち、一部の業務を慶應義塾から当該業務の委託を受けた受託業者において行います。業務委託に当たり、受託業者に対して委託した業務を遂行するために必要となる範囲で、個人情報を提供することがあります。
5. 三田会または同窓会から要請があったときは、当該三田会または同窓会に所属する者の個人情報を当該組織の活動に必要な範囲で提供することがあります。
6. 慶應義塾は、上記3～5の利用目的の他には、特にお断りする場合を除いて個人情報を利用もしくは第三者への提供をいたしません。ただし、法律上開示すべき業務を負う場合や、塾生ないし塾員本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を保護するために必要であると判断できる場合、その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には、例外的に第三者に個人情報を提供することがあります。
7. 慶應義塾の個人情報保護に関する規程は、以下のURLでご覧いただくことができます。
URL (<https://www.keio.ac.jp/ja/privacy-policy/index.html>)

目 次

2020年度学事日程	1
一般注意事項	
I 学生証（身分証明書）	2
II 掲示板	2
III Web システム	3
IV 諸届・各種証明書	3
V 学費の納入について	5
VI 学生自習室及びロッカー室の使用について	5
VII 修士論文について	5
VIII 学生健康保険互助組合（学生健保）	6
IX 保険について	6
X 緊急時における授業の取り扱いについて	7
履修上の注意	
I 課程修了の要件	8
II 履修科目の選択	8
III 履修申告	9
IV 成績	10
授業時間割表および講義予定表	11
選択必修科目の講義概要	17
選択科目の講義概要	24
医学研究科委員（修士課程）一覧	36
奨学金制度・慶應義塾大学教育ローン制度について	39
（巻末）履修申告関連用紙 信濃町キャンパス 講堂・掲示板 配置図	

2020年度大学院医学研究科修士課程学事日程

入学式（於：日吉）	4月 3日（金）
ガイダンス	4月 3日（金）
Web 履修申告期間	4月 8日（水）～ 4月14日（火）
授業開始	4月 3日（金）
定期健康診断	4月17日（金） ・ 4月21日（火）
開校記念日（休業）	4月23日（木）
夏季休業	7月24日（金）～ 8月23日（日）
授業開始	8月24日（月）
修士論文発表会	10月26日（月）～10月27日（火）
冬季休業	12月30日（水）～ 1月 4日（月）
授業開始	1月 5日（火）
福澤先生誕生記念日（休業）	1月10日（日）
修士論文提出締切日	1月 8日（金）
修士論文審査委員会	1月25日（月）～ 1月 27日（水）
学位授与式	3月26日（金）

一 般 注 意 事 項

I 学生証（身分証明書）

1. 学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険組合員証、および本塾図書館入館証を兼ねています。
2. 学生証は登校の際、常時携帯し、次のような場合には提示しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員からの請求があった場合。
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合。
 - (3) 図書館等の特に定める施設に入室する場合。
 - (4) 通学定期乗車券または学生割引乗車券を購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員からの請求があった場合。
3. 学生証配付時には「カード」・「在籍確認シール」(裏面シール)・「カードケース」の3点で1セットとなります。「在籍確認シール」(裏面シール)は必ず「カード」裏面に貼付していなければなりません。「在籍確認シール」(裏面シール)が貼付されていない学生証は無効です。「カード」と「カードケース」は入学時に配付し、離籍するまで使用します。「在籍確認シール」(裏面シール)には、有効年月日が記載されており、年度が変わる度に配付します。
4. 「在籍確認シール」(裏面シール)の更新（2年次）
各年度末の成績表送付時に、新年度の「在籍確認シール」を同封します。所定事項を記入し、カード裏面に貼付してください。
5. 再交付手続
学生証を紛失、破損した場合には、写真1枚を添えて学生課（学事担当）で再交付を受けてください（手数料2,000円）。受付時間は平日午前8時45分～午後4時45分までです。再発行の学生証の交付には、約1週間を要します。なお、再交付を受けた後、以前の学生証が見つかった場合は、すみやかに古い学生証は学生課（学事担当）へ返却してください。

II 掲示板

学生諸君への通達事項は、すべて孝養舎前に設置している修士課程用掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示板を確認するようにしてください。掲示を確認しなかったため、不利益を被ることがありますので、注意してください。掲示内容の一部については、keio.jp ポータルのニュース機能あるいはメッセージ機能にて通知することもありますので、あわせて確認するようにしてください。

III Web システム

keio.jp (http://keio.jp/)

ログイン方法：慶應 ID と keio.jp パスワード

主な提供サービス：学業成績表の閲覧、慶應メール

入学時ガイダンスの指示に従い、利用のための「アクティベーション」を行ってください。keio.jp の利用登録により取得した慶應 ID はメールアドレスとしても使用し、学年メーリングリストに登録されます。慶應 ID やパスワードを忘れた場合は、学生証を持参の上、信濃町 ITC 窓口に出してください。

履修申告や登録済科目の確認、住所変更等は学事 Web システムから行います。学事 Web システムには keio.jp から入ることができます。

学事 Web システム

ログイン方法：keio.jp からアクセス

主な提供サービス：履修申告、登録済科目確認、住所確認・変更、
証明書発行機の暗証番号確認

IV 諸届・各種証明書

下記事項はすべて学生課（学事担当）で取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届

※全ての書類に、指導教授の署名・捺印が必要です。

【休学願】

休学しようとする者は、直ちに休学願を学生課（学事担当）に提出してください。休学期間は半年または 1 年です。休学を継続する場合、改めて事前に休学願を提出しなければなりません。

【就学届】

休学期間が終了した場合は、速やかに就学届を学生課（学事担当）に提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学をしていた場合には、併せて医師の診断書を提出してください。

【退学届】

退学しようとする者は、退学届に学生証を添えて学生課（学事担当）に提出しなければなりません。

2. 留学

留学を希望する場合には、その 3 か月前までに国外留学申請書を学生課（学事担当）に提出する必要があります。留学は 1 か年単位とし、延長する場合はその都度申請しなければなりません。ただし、延長を認められるのは 2 年間までです。

なお、帰国後、直ちに帰国届を提出する必要があります。

詳しくは、学則第 124 条および「学生の国外留学に関する取扱い規則」を参照してください。

3. 学外研究施設での研究届

学生は、一定期間本大学以外の研究機関（研究施設）において研究を行うことができることとなっています。ただし、その都度「学外研究機関における研究届」（指導教授の署名捺印が必要）を学生課（学事担当）に提出し、研究科委員会の承認を得る必要があります（学会参加は提出不要）。

「学外研究機関における研究届」は学生課窓口、または以下 Web サイトから入手することができます。

<https://www.students.keio.ac.jp/sn/gsmmed/procedure/master/off-campus-research.html>



4. 住所変更（本人・保証人）

(1) 本人の住所変更の場合

速やかに学事 Web システムにて、住所変更を行ってください（URL およびログイン方法は前ページ参照）。不備がなければ、申請は通常、数日で承認されます。通学定期の区間が変更となる場合は、学生証裏面シールの記載事項の訂正および訂正印が必要となりますので、住所変更の申請が承認された後に、学生課（学事担当）に届け出てください。

(2) 保証人の住所変更の場合

速やかに信濃町学生課学事担当窓口へ届け出てください。

— 必要書類 — 学生証、住所変更届（所定用紙）、保証人の住民票（3 か月以内に発行されたもの）

5. 保証人変更届、改姓（名）届

各届とも所定の用紙に記入のうえ速やかに学生課（学事担当）へ提出してください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重要な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

6. 各種証明書・学割証

孝養舎 1 階にある「証明書自動発行機」を使用してください（即時発行）。操作には、学生証と暗証番号が必要です。※暗証番号は学事 Web システムで確認できます。

【発行機稼動時間】月曜～金曜日 9:00 ～ 20:00（祝日を除く）

※その他の停止期間は随時掲示板等で通知します。

【発行証明書種類】

証明書	金額	備考
在学証明書, 成績証明書 (和文・英文)	200 円	
健康診断証明書 (和文)	200 円	健康診断受診後 7 月上旬より発行可
学割証	無料	

厳封が必要な証明書、上記以外の和文証明書、英文証明書を希望する場合は、所定の申込用紙に必要な分の証紙を添付して学生課（学事担当）に申請してください。発行には数日かかる場合がありますので申し込みの際に確認してください。

※「証明書自動発行機」で発行された証明書は厳封できません。

学生課窓口受付時間 平日 8:45 ～ 16:45

V 学費の納入

学費の納入については、銀行振込制度をとっており、入学時納入金以降の振込用紙は保証人宛に発送されます。振込用紙により、期日までに銀行窓口で納入してください。

また、納入証明書は大切に保管してください。

	春 学 期	秋 学 期
振込用紙発送（予定）	4月上旬	10月上旬
納 入 期 限	4月末日	10月末日

やむを得ない事情で授業料を期日までに納入できない場合は、「授業料延納申請書」（学生課窓口で配付）を提出してください。理由が適当と認められた者に対しては、「延納決定通知書」を送付いたします。届出の期日については学生課学生生活担当で日程を確認してください。

VI 学生自習室およびロッカー室の使用について

1 学生自習室について

「信濃町キャンパス自習室利用規則」に則り、利用してください。

・孝養舎2階自習室

6:00～23:00 まで利用可能

ただし正面玄関は施錠されるため、21:00 以降は正面玄関脇の非常口から退出してください。正面玄関施錠時間に利用する場合には、防災センター(1号館1階)で解錠手続をしてください。

・第二校舎1階自習室

6:00～23:00 まで利用可能

入室には学生証が必要です。

2 ロッカー室の使用について

利用を希望する学生には、鍵を貸出しますので学生課窓口まで来室してください（要学生証）。ただし、ロッカー数には限りがあるため、希望に添えないこともありますのでご了承ください。

VII 修士論文について

1 修士課程を修了するためには、各授業科目の単位を取得することと併せて、大学院学則第86条の7の定めるところにより、指導教授の指導の下で修士論文を作成し、定められた締切日までに所定部数を学生課学事担当窓口へ提出し、審査委員会での論文審査に合格する必要があります。提出締切日および審査委員会の日程については、学事日程を参照してください。また、審査委員会当日は、論文内容に関連した試問が実施されますので、当日は他の予定を入れないようにしてください。

なお、論文の提出部数は、審査委員の人数により変更されることがあります。その際は掲示で通知するので注意してください。

2 修士論文の提出に先立ち、修士論文発表会を第2学年次10月下旬に実施します。各自、論文内容についてプレゼンテーションを行い、発表後には諸先生方との質疑応答が行われます。発表時間は質疑応答を含めて30分を予定しています。修士論文発表

会の日程については、学事日程を参照し、当日は他の予定を入れないようにしてください。なお、本発表会は公開制で行われるので、審査委員の他、多くの学生および教職員が来聴します。第1学年の学生は聴講必須です。プレゼンテーションの内容および方法については、予め指導教授とよく相談しておいてください。

VIII 学生健康保険互助組合（学生健保）

医療費の一部が給付される医療給付と契約旅館の紹介を行う予防給付があります。詳細については、ガイダンス時に配付した『健保の手引』を参照してください。

・医療給付

医療機関で診療を受けた場合、窓口で支払った自己負担額の一部を給付する制度です。制度を利用する際は、まず「医療給付振込口座届」（所定書式）の提出が必要です。申請方法などの詳細は、以下 Web サイトで確認してください（keio.jp 認証が必要です）。

keio.jp にアクセス(<http://keio.jp>) → 「Application」メニューより
学生健康保険互助組合「医療給付制度」を選択→学籍番号を入力

・予防給付

契約旅館に対する宿泊費補助や、学生健保委員会が企画する各種イベントの開催などを行っています。

IX 保険について

1. 全員加入の保険

- ・学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約有り）

大学の国内外における教育研究活動中に生じた急激かつ偶然な事故によって身体に傷害を被った場合に保険金が支払われます。

【対象となる活動範囲】

- ・大学内外での正課・大学行事
- ・住居と学校施設等との間の通学
- ・学校施設等相互間の移動中の事故など

詳細については、ガイダンス時に配付した『学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり』を参照してください。また上記活動中に傷害を被った場合は、直ちに学生課学生生活担当窓口で事故通知の手続きをしてください。なお、この通知から保険金の支払いまでの手続過程は以下の通りです。

=== 事故発生から保険金請求まで ===

【事故発生】 ↓	
【事故通知】 ↓	<p>学生課学生生活担当へ連絡する。 ⇒ 事故通知の作成・送付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故通知システム(PC、スマートフォン) ・FAX ・事故通知はがき（学生課学生生活担当窓口で配付） <p>* 事故発生から 30 日以内に保険会社に事故報告</p>

【保険金請求手続】 ↓	「保険金請求書」を学生課学生生活担当窓口で受領する。 ⇒ 必要事項を記入のうえ、学校証明印をもらう。 *場合によって各種証明書、医師の診断書等が必要
【保険会社へ書類送付】 ↓	保険金請求書を学生が送付する。
【保険金支払】	本人が指定した金融機関口座へ、保険会社から支払われる。

〈注意〉死亡事故の場合は保険金の支払いが大学を経由して行われるなど、上記とは手続が異なります。

2. 任意加入の保険

その他の保険に加入希望の場合は、直接それぞれに申し込むことになっています。

- ・学生総合補償制度保険
担当： (株)慶應学術事業会(慶應義塾関連会社) / 連絡先：03-3453-3846
- ・学生総合共済
担当： 慶應義塾生活協同組合 / 連絡先：045-563-8489
- ・学研災付帯賠償責任保険
担当： 学生課学生生活担当 / 連絡先：03-5363-3665

X 緊急時における授業の取り扱いについて

台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や、大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場合は Web サイト等を通じてお知らせします。

「慶應義塾トップページ」→「在学生」→「塾生向けサイト」

〈その他の注意事項〉

授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。

掲示や構内放送、上記の Web サイトによる大学からの指示に従ってください。

履 修 上 の 注 意

I 課程修了の要件

- 1 2年間（デュアル・ディグリー制度適用の場合は1年）以上医学研究科修士課程に在籍し、選択必修科目26単位、選択科目4単位以上、合わせて30単位以上の授業科目を修得すること。ただし、本大学大学院経営管理研究科からのデュアル・ディグリー制度による入学者は、産業経済分析：ライフサイエンス産業（隔年で開講）4単位の計8単位を含む26単位を選択必修科目として修得するものとする。
- 2 学位論文（修士論文）の提出および最終審査に合格すること。

II 履修科目の選択

1 科目の選択についての注意

履修科目の選択にあたっては、必ず指導教授の指示に従ってください。

第1年次終了時までには14単位以上（選択必修科目の10単位を含む）を履修することを原則とします。第2年次は修士論文作成や研究活動を中心と出来るように、修了に必要な単位のうち「医科学特別研究」以外については、可能な限り第1学年次に履修するようにしてください。「医科学特別研究」については、第1学年次から修士課程を通じて履修すべきものですが、第2学年次における論文審査合格後に単位が認定されるため、第1学年次に単位を取得することはできません。

2 選択科目について（アントレプレナー育成コース設置科目を除く）

選択科目（アントレプレナー育成コース設置科目を除く）の履修にあたっては、各自4月中に必ず科目責任者に連絡のうえ、指示を受けるようにしてください。連絡せず指示を受けなかった場合は、単位は取得できませんのでご注意ください。（自身に不利益となります）

3 医学特別講義について

医学研究科博士課程の学生を対象として、研究科委員（博士課程）全員による医学特別講義を開講しています。修士課程についても、この授業を選択科目として履修することができます。

4 他の研究科・学部の授業履修について

指導教授が必要と認めた場合には、医学研究科委員会の審議を経て、他の研究科修士課程、学部、もしくは研究所等塾内諸機関に設置された授業科目、もしくは医学研究科委員会の認める他大学大学院もしくは塾外研究機関における授業科目を指定して履修させ、評価の上適当な単位を与えることができる。（学則第86の5条①）

指導教授の指示により、他の研究科修士課程・学部等の授業科目を選択科目として履修することが可能です。医学研究科以外の科目を履修しようとするときは、必ず学生課（学事担当）に履修の方法について問い合わせてください。

5 デュアル・ディグリー制度による入学者の単位認定について

デュアル・ディグリー制度による入学者のうち、前研究科在学時に取得した共通科目の単位認定を希望する者は、履修申告期間中に学生課（学事担当）に申し出てください。

6 アントレプレナー育成コースの修了要件について

選択必修科目26単位を修得し、選択科目として、「アントレプレナー習得講座」、「レギュラトリーサイエンス」、「健康医療イノベーション」、「データ・ドリブン社会の戦略と創発（基礎）」を全て履修し、単位を修得した者は、アントレプレナー育成コースの修了を認定する。

Ⅲ 履修申告

学事 Web システムによる申告期間	4月 8日(水) 12:30	～	4月 14日 (火) 11:00
登録科目一覧画面コピーの提出	4月 8日(水)	～	4月 17日 (金) 16:45
履修申告修正期間	4月 28日(火)	～	5月 1日 (金) 16:45

「Webによる履修申告」を行った学生は、必ずWeb申告期間中に画面に表示される「登録科目一覧」画面を印刷し、右上の「指導教員欄」に承認印を受けた用紙を4月17日（金）16:45までに信濃町学生課前レポートボックスに提出してください。履修申告修正期間後は本年度の履修確認が終了したものとみなし、履修内容は確定されます。以上を怠ったために生じた問題（申告漏れにより修了単位不足となる）について大学は一切責任を負いません。

Web 履修申告（学事 Web システムより）

ログイン方法：keio.jpよりアクセスしてください。

*操作方法・注意は別紙“履修申告マニュアル”および学事Webシステム上のオンラインマニュアルもご参照ください。

1 履修申告について

年間の履修計画を指導教授に相談のうえで、1年次の春学期に1、2年次に履修する科目すべてを学事 Web システムより履修申告してください。別紙“2020年度授業科目登録番号一覧”の授業科目名、担当者名と登録番号（5桁）を十分に確認し、登録番号（5桁）検索で申告してください（別紙“履修申告マニュアル”参照）。履修申告期間内は何度でも申告内容を変更できますが、上記期日を守り、時間に余裕を持って行ってください。

注意事項：

- ①期日までに履修申告をしない場合は、修学の意思がないものとして退学処分になります。
- ②履修申告した科目が正しく登録されているかを必ず確認してください。その上で、必要があれば履修申告修正期間中に信濃町学生課学事担当窓口申し出て修正を行ってください。
- ③履修期間中は何度でも申告内容の修正ができますが、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止します。

2 指導教員の承認印について

Webによる履修申告期間は4月8日(水) 12:30～4月14日(火) 11:00までですが、Web登録時に下記の画面をプリントアウトして、「指導教員」欄に承認印を受けて、4月17日(金) 16:45までに信濃町学生課前レポートボックスに提出してください。

IV 成績

1 成績評語

学業成績の評語は合格した科目のみが **S・A・B・C** の4種類で示されます。ただし、特定の科目は、評語が **P** (合格)、**G** (認定) となります。

2 学業成績表

学業成績表を3月下旬に本人宛に郵送します。学業成績表はいかなる事情があっても再発行しません。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

3 WEB 閲覧

特定期間内に学業成績表を **keio.jp** で閲覧可能です。
利用にあたっては「**keio.jp**」のID、パスワードが必要です。

4 学業成績証明書を発行する時期は翌年度以降(4月以降)です。ただし、修士課程修了決定者については修了日(3月23日)以降の最初の平日から、証明書自動発行機にて発行可能です。

授業時間割表および講義予定表

【選択必修科目(春学期)】

下記の曜日は原則です。実施日、時限は、授業実施日一覧(p.13～)にて確認すること。

※「医学概論」は、「基礎的概論」、「ヒトの構造・機能・病態概論」をあわせて5単位です。

曜日	科目名	科目責任者	単位数	授業場所
月	医学概論（基礎的概論）	洪 実	5※	セミナールーム5
火	医療倫理学	奈良 雅俊	2	セミナールーム5
水	医学概論（ヒトの構造・機能・病態概論）	貴志 和生	5※	セミナールーム5
木	医学方法論	塩見 春彦	2	セミナールーム5
-	研究臨床体験プログラム	佐々木 淳一	1	-
-	医科学特別研究	各指導教授	16	-
-	ヘルスケアポリシー（休講）	-	2	-
未定	産業経済分析：ライフサイエンス産業	中村 洋	2	日吉キャンパス ※秋学期開講

【選択科目一覧(秋学期)】 各2単位

・実施日・時限については、4月中に指導教授および科目責任者と相談すること。

（アントレプレナー育成コース設置の科目を除く）

・今年度開講科目は別紙“科目登録番号一覧”を確認すること。

・同一科目名であっても、科目担当者が異なる場合は異なる科目として履修を認める。

・*は、アントレプレナー育成コース設置科目。

科目名	科目名	科目名
発生・分化生物学（休講）	解剖学	機能形態学
生理学	薬理学	医化学
分子生物学・遺伝子医学	熱帯医学・寄生虫学（休講）	衛生学公衆衛生学
病理学	微生物学・免疫学	法医学
医療政策・管理学	先端医科学	生命現象のコンピュータシミュレーション（休講）
内科学	外科学	麻酔学
整形外科学	形成外科学	小児科学
産婦人科学	眼科学	皮膚科学
泌尿器科学	耳鼻咽喉科学	精神医学
放射線医学	歯科・口腔外科学	リハビリテーション医学
薬剤学	臨床検査医学	救急医学
細胞生物学（休講）	生物物理学（休講）	スポーツ医学（休講）
看護学総論（休講）	生命倫理学（休講）	動物実験医学（休講）

量子生物学	人工臓器・ME・医用工学（休講）	漢方医学
ストレスマネジメント学（休講）	技術戦略論（休講）	システム生物学
がんのリハビリテーション学	臨床試験方法論	再生医学
化学	医療経済学	アントレプレナー習得講座 *
レギュラーサイエンス*	健康医療イノベーション*	データ・ドリブン社会の戦略と創発（基礎）*
アントレプレナー修得プログラム*		

医学概論(基礎的概論)

	日程	時限	授業担当者	内容
第1回	4月6日(月)	1	洪 実	コースガイド・生命システム総論
第2回	4月6日(月)	2	岡野 栄之	生理学
第3回	4月13日(月)	1	大多 茂樹	腫瘍免疫学
第4回	4月13日(月)	2	柚崎 通介	神経生理学
第5回	4月20日(月)	1	末松 誠	医化学
第6回	4月20日(月)	2	久保田 義顕	形態学・解剖学
第7回	4月27日(月)	1	梶村 眞弓	細胞生物学
第8回	4月27日(月)	2	吉村 公雄	医療政策・管理学
第9回	5月11日(月)	1	阿部 陽一郎	薬理学
第10回	5月11日(月)	2	金井 弥栄	病理学・エピゲノム
第11回	5月18日(月)	1	吉村 昭彦	免疫学
第12回	5月18日(月)	2	塩見 春彦	分子生物学
第13回	5月25日(月)	1	松尾 光一	組織学・骨の発生学
第14回	5月25日(月)	2	佐谷 秀行	先端医科学・遺伝子制御
第15回	6月1日(月)	1	藤田 眞幸	法医学
第16回	6月1日(月)	2	小崎 健次郎	臨床遺伝学
第17回	6月8日(月)	1	本田 賢也	微生物学
第18回	6月8日(月)	2	仲嶋 一範	神経解剖学

授業場所: セミナールーム5

医療倫理学

	日程	時限	授業担当者	内容
第1回	4月7日(火)	1	奈良 雅俊	イントロダクション:医療倫理学とは何か
第2回	4月7日(火)	2	奈良 雅俊	倫理学の基礎
第3回	4月14日(火)	2	奈良 雅俊	第一部 臨床倫理 1.インフォームド・コンセント
第4回	4月28日(火)	2	奈良 雅俊	2.守秘義務と個人情報保護
第5回	5月12日(火)	2	奈良 雅俊	3.生殖医療/遺伝医療と倫理
第6回	5月19日(火)	2	奈良 雅俊	4.終末期医療と倫理
第7回	5月26日(火)	2	奈良 雅俊	5.医療資源の配分
第8回	6月2日(火)	2	奈良 雅俊	医療倫理の4原則
第9回	6月9日(火)	2	奈良 雅俊	臨床倫理検討報(4分割法アプローチ)
第10回	6月16日(火)	2	奈良 雅俊	第二部 研究倫理 1.研究公正
第11回	6月23日(火)	2	奈良 雅俊	2.人を対象とする医学研究の倫理原則
第12回	6月30日(火)	2	奈良 雅俊	3.倫理委員会(IRB)と研究倫理指針
第13回	7月7日(火)	2	奈良 雅俊	4.利益相反
第14回	7月14日(火)	2	奈良 雅俊	5.幹細胞研究と倫理
第15回	7月21日(火)	2	奈良 雅俊	プロフェッショナリズム

授業場所:セミナールーム5

医学概論(ヒトの機能・構造・病態概論)

	日程	時限	授業担当者	内容
第1回	4月8日(水)	1	平田 賢郎	ヒトの病態 総論
第2回	4月8日(水)	2	吉崎 崇仁	神経疾患
第3回	4月15日(水)	1	野田 賀大	精神疾患
第4回	4月15日(水)	2	名越 慈人	再生医療
第5回	4月22日(水)	1	前田 純宏	高齢医学
第6回	4月22日(水)	2	横田 健一	内分泌・代謝疾患
第7回	5月13日(水)	1	宇野 俊介	感染症
第8回	5月13日(水)	2	高石 官均	腫瘍
第9回	5月20日(水)	1	大友 耕太郎	免疫疾患
第10回	5月20日(水)	2	清水 隆之	血液疾患
第11回	5月27日(水)	1	白石 泰之	循環器疾患
第12回	5月27日(水)	2	安田 浩之	呼吸器疾患
第13回	6月3日(水)	1	谷木 信仁	消化器疾患
第14回	6月3日(水)	2	阪埜 浩司	婦人科疾患
第15回	6月10日(水)	1	武田 利和	腎・泌尿器疾患
第16回	6月10日(水)	2	小島 隆司	眼科疾患
第17回	6月17日(水)	1	藤岡 正人	耳鼻咽喉科疾患
第18回	6月17日(水)	2	鈴木 悟士	筋骨格系疾患
第19回	6月24日(水)	1	山上 淳	皮膚疾患
第20回	6月24日(水)	2	公田 龍一	放射線生物学
第21回	7月1日(水)	1	飯田 美穂	公衆衛生学
第22回	7月1日(水)	2	武内 俊樹	小児先天異常

授業場所: セミナールーム5

医学方法論

	日程	時限	授業担当者	内容
第1回	4月9日(木)	2	蓮輪 英毅	動物実験方法論1
第2回	4月16日(木)	2	蓮輪 英毅	動物実験方法論2
第3回	4月22日(水)	6	佐藤 泰憲	臨床研究方法論
第4回	4月30日(木)	2	荒川 和晴	人工クモ糸応用の産学連携事例
第5回	5月7日(木)	2	鈴木 治夫	都市の微生物群集
第6回	5月13日(水)	6	広海 健	研究者のための研究プレゼンテーション術その1：構成のストラテジー
第7回	5月14日(木)	2	広海 健	研究者のための研究プレゼンテーション術その2：情報提示の大技・小技
第8回	5月21日(木)	2	山本 博之	疫学・医学統計概論①
第9回	5月28日(木)	2	松尾 光一	共同利用研究室ツアー（機械使用方法）
第10回	6月4日(木)	2	岡村 智教	疫学・医学統計概論②
第11回	6月11日(木)	2	松尾 光一	共同利用研究室ツアー（機械使用方法）
第12回	6月17日(水)	6	長谷川 奉延	医科学方法論 超入門
第13回	6月18日(木)	2	Timothy Minton	英語論文執筆方法
第14回	6月25日(木)	2	Timothy Minton	演習
第15回	7月2日(木)	2	坪田 一男	修士のためのアントレプレナーシップ(起業家精神)

授業場所：セミナールーム5

※博士課程との合同授業「医科学方法論 超入門」、「研究者のための研究プレゼンテーション術その1：構成のストラテジー」、「臨床研究方法論」が3回追加で入ります。
 ※博士課程との合同授業は、孝養舎202教室で実施します。

選 択 必 修 科 目 の 講 義 概 要

医学概論（基礎的概論）

責任者：洪 実 教授（システム医学）

本科目は、医学部の基礎系の講座・教室が中心となって医学部学生に行われている授業を実体験し、それぞれの基礎科目の概念・成り立ち・考え方を例示的なテーマを中心に学習することを目的とする。生命科学はBiomedical Science と称されることもあり、基礎研究でも医学・医療への応用を究極の目的とすることが多く、医学部基礎系の学問全体に触れることは修士学生諸君の将来のキャリアに大きなプラスになることが期待される。

医学概論（ヒトの構造・機能・病態概論）

責任者：貴 志 和 生 教授（形成外科学）

本科目は、上記の医学概論（基礎的概論）と対になった臨床に軸足をおいたテーマを中心に学習することを目的とする。全22回からなるオムニバス形式の講義で、各領域の第一線で活躍している慶應義塾大学の臨床系各教室の医師に、それぞれが専門とする分野についての講義をお願いした。臓器別・疾患別に各疾患の病態とそれらが抱える問題点、治療の最前線についての講義を、実臨床に則した内容で聴講することができる。

医療倫理学

責任者：奈 良 雅 俊 教授（文学部）

医療倫理とは、医療と医学研究において守らなければならないルールである。医療倫理を支える学問が医療倫理学である。授業では医療倫理学の基礎知識を講義する。総論として、倫理学の基礎、医療倫理の原則とアプローチ、インフォームド・コンセント、守秘義務と個人情報保護、人を対象とする医学研究の倫理原則をとりあげる。各論として、生殖医療/遺伝医療と倫理、終末期医療と倫理、医療資源の配分、研究公正、倫理委員会（IRB）と研究倫理指針、利益相反、幹細胞研究と倫理、プロフェSSIONナリズムをとりあげる。この科目の目標は、医療と医学研究における倫理の重要性を説明できることである。

医学方法論

責任者：塩 見 春 彦 教授（分子生物学）

本科目は、医学研究（基礎及び臨床）の進め方や研究の際の留意点を中心に学習することを目的とする。また、研究成果の医学・医療への応用を具体的に進める際の基本的な考え方を学ぶことは修士学生諸君の将来のキャリアに大きなプラスになることが期待される。

研究臨床体験プログラム

責任者：佐 々 木 淳 一（救急医学）

本科目は、以下3つのプログラムより構成される。

〈医学・薬学合同サマースクール〉 医学研究科と薬学研究科との修士課程連携体制を新たに構築し、それぞれの研究内容を共有することで連携協力体制の活性化を目指すとともに、ワーク・ライフ・バランスについて考える機会とする。

〈臨床体験プログラム〉 慶應義塾大学病院の診療科の中から1科を選択して臨床現場を体験し、高度専門医療について学ぶ。

〈薬学研究科ラボツアー〉 薬学研究科の研究室・講座を選んで見学し、異分野における先進的研究を学ぶ機会とする。

医科学特別研究

責任者：各 指 導 教 授

医科学を専攻する学生は、指導教授の指導により自己の研究テーマを定め、二年間の研究を行う。この際、指導教授の研究室が開催する研究会、演習等へも積極的に参加することにより当該研究分野に関わる様々な事項を学ぶ。自分の研究活動によって得られた成果については、修士論文発表会および修士論文審査会において関連分野の学識を有する複数の教員等により評価される。本科目では、これらの過程を通して学生が当該分野の学識を深め、研究者としての礎を作ることを目的とする。

産業経済分析:ライフサイエンス産業 2単位(2学期)

INDUSTRY ANALYSIS: LIFE SCIENCE INDUSTRY

2 credits (Fall)

教授 中村 洋

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

ライフサイエンス産業は今後大きな成長が見込まれる有望な産業の一つで、既存企業のみならず多くの異業種の企業も参入しています。

講義の目的は、以下の3点です。

- ① **(制度の視点)** 規制産業であるライフサイエンス産業を取り巻く制度(診療報酬制度、薬価・医療機器保険償還価格制度、費用対効果評価制度など)の最新状況ならびに今後の方向性の把握
- ② **(産業の視点)** ライフサイエンス産業の現状/最新の動向(テクノロジーや医療機関側の動きなどを含む)ならびに直面する課題を把握するとともに今後の方向性を議論すること
- ③ **(企業・組織の視点)** ライフサイエンス産業の様々な分野(医薬品、医療機器、情報ビジネス、保険外ビジネス等)におけるKSF(主要な成功要因)を導き出すこと

科目の構成は、以下になります。

- ① 講義ならびにQ&A
 - ・ ライフサイエンス産業を取り巻く制度の最新状況ならびに今後の方向性(診療報酬制度、薬価・医療機器保険償還価格制度、費用対効果評価制度など)
 - ・ ライフサイエンス産業の現状/最新の動向ならびに直面する課題(テクノロジーや医療機関側の動きなどを含む)
- ② ケース・ディスカッション
内外の医療機器メーカー、情報系企業、医薬品/ベンチャー企業を取り上げる予定
- ③ 個人・グループ研究発表
 - ・ フルタイムMBA/EMBAの2年生は、進行中の修士論文/個人研究を活用するのもアイデアの一つです。
 - ・ ケース化を希望する方は相談ください。(受講生の希望により外部講師による講演も)

(その他)

・ 異業種の多くの企業がヘルスケア分野に参入する中で、これまでライフサイエンス分野に関係がなかったも、今後ライフサイエンス分野に関係する仕事をする可能性は十分高いと思われますので、興味のある方は受講をお勧めします(専門用語は随時、解説します)。
・ 講義/ケース・ディスカッションの一部は、広くOB/OGの方にも聴講を声掛けしますので、人的ネットワークを広げる場にもしたいと思えます。

授業の計画:

第1-2回: イントロダクションならびに講義/Q&A

第3-18回: 講義/Q&A、ケース・ディスカッション、個人・グループ研究発表(外部講師による講演も)

(平日に設定するグループ討論は、場所ならびに日程をグループで自由に設定可能です。)

成績評価方法:

授業参加/貢献(50%)、グループ・個人研究(50%)

データ・ドリブン社会の創発と戦略(基礎)

科目責任者: 安宅 和人

概要: 湘南藤沢キャンパス シラバスを参照してください。

http://vu.sfc.keio.ac.jp/course2014/faculty/class_syll_view.cgi?ks=X1038&key=5f0ff1a6c2182bc90cedf61d542259f7bf92b066257f34ca

※シラバスは、「keiomobile2」に接続している時のみ、
閲覧が可能です。



	日 程		教室(予定)	授業担当者	授業内容
	日時	時限			
第1回	9月28日(月)	5	孝養舎202	シラバスを参照	シラバスを参照
第2回	9月28日(月)	6			
第3回	10月5日(月)	5			
第4回	10月5日(月)	6			
第5回	10月12日(月)	5			
第6回	10月12日(月)	6			
第7回	10月19日(月)	5			
第8回	10月19日(月)	6			
第9回	11月9日(月)	5			
第10回	11月9日(月)	6			
第11回	11月16日(月)	5			
第12回	11月16日(月)	6			
第13回	11月30日(月)	5			
第14回	11月30日(月)	6			

成績評価方法・基準、参考書、その他備考については、シラバスを参照してください。

アントレプレナー習得講座

科目責任者：坪田 一男

概要：本講座に出る目的は、アントレプレナーシップとはそもそも何なのかを理解し、大学発のイノベーションを起こす際に、アントレプレナーマインドを使えるようになることにある。アントレプレナーシップは、社会解決のために、リスクを恐れず、果敢に挑戦する姿勢というふう理解される。これを健康医療分野においてしっかり理解することを目的とする。

	日 程		教室(予定)	授業担当者	授業内容
	日時	時限			
第1回	4月8日(水)	6	セミナールーム5 (新教育研究棟4階) (仮)	坪田 一男	大学発ベンチャーの事業戦略と財務戦略
第2回	4月8日(水)	7			同演習
第3回	4月15日(水)	6		村上 裕太郎 (経営管理研究科)	会計リテラシー
第4回	4月15日(水)	7			同演習
第5回	4月22日(水)	6		中村 洋 (経営管理研究科)	医療機器メーカーのケーススタディ
第6回	4月22日(水)	7			同演習
第7回	5月13日(水)	6		内田 毅彦 (日本医療機器開発機構)	医療機器スタートアップの実際
第8回	5月20日(水)	6		清泉 貴志 (U.C.S.D.)	アーリーステージの医療系ベンチャーの資金調達について
第9回	5月20日(水)	7			同演習
第10回	6月3日(水)	6		名倉 武雄	高齢化社会における運動器基礎研究によるイノベーション (仮題)
第11回	6月3日(水)	7			同演習
第12回	6月17日(水)	6		大藪 毅 (経営管理研究科)	医療系スタートアップの人材マネジメント
第13回	6月17日(水)	7			同演習
第14回	7月1日(水)	6		岡田 正大 (経営管理研究科)	破壊的イノベーションとGoogle創造性のマネジメント
第15回	7月1日(水)	7			同演習

成績評価方法・基準：最後の授業においてレポートを提出してもらい、それによって評価する。なお、出席も点数に考慮する。

テキスト(教科書)：4/15 = ビジネス・アカウンティング第4版(中央経済社)

4/22 = ケースは朝日インテックを使用予定

https://www.bookpark.ne.jp/cm/contentdetail.asp?content_id=KBSP-02425

参考書：4/15 = なぜ会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった(東洋経済新報社) + 当日配布資料

5/13 = バイオデザインの教科書

6/17 = 失敗の科学(マシュー・サイド 2016 Discover21) + 当日配布資料

全体の参考書：企業のエクイティ・ファイナンス 磯崎 哲也

国富論 原丈人

ファイナンス思考 朝倉 祐介

OKR ジョン・ドーア

2052 ヨルゲン・ランダース

アントレプレナーの教科書 スティーブン G ブランク

(インターネット)の次に来るもの ケヴィン・ケリー

エンジェル投資家 ジェイソン・カラカニス

ライフシフト リンダ グラットン

備考：18:10~19:40、19:50~21:20が基本になっていますが、回によって変動する場合がありますのでご注意ください。

レギュラトリーサイエンス

科目責任者：坪田 一男

概要：医療アントレプレナーの育成において、研究開発からビジネス展開までの過程において、レギュラトリーサイエンスの理解を深めておくことは必要不可欠である。本講座ではレギュラトリーサイエンスとは何か、また開発を進めていくなかで、品目毎、あるいは開発相(phase)毎に必要なレギュラトリーサイエンスについて、臨床研究や治療といった開発後期まで含めて学ぶことができる。

	日 程		教室(予定)	授業担当者	授業内容
	日時	時限			
第1回	4月9日(木)	6時限	孝養舎202	許斐健二	レギュラトリーサイエンス総論
第2回	4月9日(木)	7時限			同 演習
第3回	5月7日(木)	6時限	孝養舎202	丸山達也 (東京大学)	アカデミアにおける研究開発とは
第4回	5月7日(木)	7時限			同 演習
第5回	5月14日(木)	6時限	孝養舎202	藤原康弘(PMDA)	日本から世界にむけたレギュラトリーサイエンス(仮)
第6回	5月21日(木)	6時限	孝養舎202	池田 孝則 (客員教授:MSD)	医薬品のレギュラトリーサイエンス
第7回	5月21日(木)	7時限			同 演習
第8回	5月28日(木)	6時限	孝養舎202	尾山 和信 (客員准教授)	再生医療等製品のレギュラトリーサイエンス
第9回	5月28日(木)	7時限			同 演習
第10回	6月11日(木)	6時限	孝養舎202	鈴木 由香 (東北大学)	医療機器のレギュラトリーサイエンス
第11回	6月11日(木)	7時限			同 演習
第12回	6月18日(木)	6時限	孝養舎202	池野 文昭 (メドベンチャーパートナーズ)	スタンフォード大学における医療系起業家育成講座
第13回	6月25日(木)	6時限	孝養舎405	鈴木康裕 (厚生労働省)	医療経済とレギュラトリーサイエンス(仮)
第14回	7月2日(木)	6時限	孝養舎202	菅原 岳史 (千葉大学)	臨床研究、治験とレギュラトリーサイエンス
第15回	7月9日(木)	6時限	孝養舎202	許斐健二	レギュラトリーサイエンスのまとめと試験

成績評価方法・基準：最後の授業においてレポートを提出してもらい、それによって評価する。なお、出席も点数に考慮する。

テキスト(教科書)：未定

参考書：

絶対に知るべき臨床研究の進め方—PMDAで得た研究者の心構え48。メジカルビュー社
再生医療等製品製造販売指針。じほう
医薬品製造販売指針2018。じほう
医療機器開発ガイド。じほう

健康医療イノベーション

科目責任者：坪田 一男

概要：健康医療領域におけるイノベーションの起こし方、進め方について学ぶことができる。本コースを受けることにより、アイデアレベルのものを、実際の社会実装まで届ける考え方、実際の方法について学ぶことができる。

	日 程		教室(予定)	授業担当者	授業内容
	日時	時限			
第1回	10月2日(金)	6	孝養舎 202教室	坪田 一男	健康医療イノベーション概論
第2回	10月2日(金)	7			同 演習
第3回	10月9日(金)	6		中村 洋 (経営管理研究科)	ベンチャー起業の基本と考え方(仮題)
第4回	10月9日(金)	7			同 演習
第5回	10月23日(金)	6		地主 将久	製薬企業におけるReal-world Evidenceの役割
第6回	10月23日(金)	7			同 演習
第7回	10月30日(金)	6		岡田 正大 (経営管理研究科)	プラットフォームビジネスとネットワーク効果
第8回	10月30日(金)	7			同 演習
第9回	11月6日(金)	6		Emre Toker (Washington University in St. Louis School of Medicine)	Introduction to Entrepreneurship for Biomedicine
第10回	11月6日(金)	7			Starting Your Entrepreneurial Journey (Interactive activities and discussion)
第11回	11月13日(金)	6		末松 誠 (日本医療研究開発機構)	グローバルデータシェアリングによる医療研究開発の課題解決
第12回	11月27日(金)	6		山岸 広太郎 (慶應イノベーション・イニシアティブ)	ベンチャーキャピタルの投資戦略(仮題)
第13回	12月4日(金)	6		岡野 栄之	健康医療ベンチャーの現実と課題 特に再生医療関係ベンチャーについて
第14回	12月18日(金)	6		坪田 一男	健康ベンチャーの事業戦略と資本政策
第15回	12月18日(金)	7			健康医療イノベーションまとめと試験

成績評価方法・基準：最後の授業においてレポートを提出してもらい、それによって評価する。なお、出席も点数に考慮する。

参考書：11/13 = オープン：希少遺伝性疾患の子どもを救うために(Philip R.Reilly著、末松 誠訳、アドスリー社)

全体の参考書：経営戦略原論 琴坂 将広

イノベーションのジレンマ クレイトン・クリステンセン

CSV時代のイノベーション戦略 藤井 剛

医療イノベーションの本質 クレイトン・M・クリステンセン

イノベーションの達人 トム ケリー

FACTFULNESS(ファクトフルネス) ハンス・ロスリング

コトラーのマーケティング フィリップ・コトラー

ビジネス・クリエーション! ビル・オーレット

備考：18：10～19：40、19：50～21：20が基本になっていますが、回によって変動する場合がありますのでご注意ください。

選択科目の講義概要

※選択科目(アントレプレナー育成コース設置科目を除く)については、必ず4月中に科目責任者に連絡をとってください。

解剖学

科目責任者： 仲嶋 一範

以下いずれかを選択してください。

1. 医学部において実施される4回の脳実習を全て見学する。
4月8日(水)、4月10日(金)、4月22日(水)、6月19日(金) いずれも3,4限
2. 原則隔週で行われるjournal clubに参加する。(主に脳の発生・分化機構に関する論文を扱う)

準備学習時間: 予習及び復習として、1コマあたり各々1.5時間

内容: 1は、オリジナルの実習書を教材として事前に配布する。2は、原則として前日までに対象論文が通知される。

※受講者は、4月初めに科目責任者の指示を受けてください。特に1を希望する者は、遅くなると今年度の受講ができなくなるので注意すること。

機能形態学

科目責任者： 久保田 義頭

血管・リンパ管、その他組織の発生に関し、形態学的な観点から遺伝子の機能について理解を深める。科目責任者の指定したセミナーまたはカンファレンスに出席して、活発にディスカッションを行い、原則としてその内容に関するレポートを提出する。 ※受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

生理学

科目責任者： 岡野 栄之

生体の恒常性の維持に関わる生理機能につき、個体レベル、細胞レベル、分子レベルで概説すると共に、関連分野や最先端研究領域を中心とした最前線の研究成果を紹介し、包括的な理解を深める。

- GIO: (1) 細胞生理学に関する基本的な理解を深める
(2) 中枢神経系の発生と再生に関する最近の研究動向を理解する

生理学

科目責任者： 柚崎 通介

シナプスは記憶・学習の座であり、うつ病・統合失調症などの精神疾患や、自閉スペクトラム症などの発達障害などの病変の基盤でもあるシナプスについての最先端の研究に触れ、議論に参加することにより理解を深める。

以下の何れか1つ以上を選択する。

1. ほぼ毎月1回行われるBrain Club Seminarに参加し、少なくとも毎回1つ質問する。
2. 毎週行われるJournal Clubに参加する。
3. 毎週行われる輪読会(原書で教科書や単行本を購読)に参加する。

薬理学

科目責任者： 安井 正人

薬力学、特に薬物受容体の構造機能相関を中心に学ぶ。また、脳内薬物動態学に関する最新の知見に関する理解を深める。原則毎週行われるジャーナルクラブ(英語)に参加する。指定した教室セミナーに参加し、レポートを提出する。

医化学

科目責任者：末松 誠

生体内高分子が低分子代謝物、薬物、食品成分でどのように構造を変え、機能を発揮するか、その作動原理を理解するとともに、生体内のエネルギーマネジメントの妙を理解する。

分子生物学・遺伝子医学

科目責任者：塩見 春彦

分子生物学及びヒト遺伝学に関する基礎知識と基本的考え方を中心に、転写レベルと転写後のレベルにおける遺伝子発現制御機構、さらにはエピジェネティックな制御機構について学ぶ。また、これら機構の破綻による疾患発症機構についても学ぶ。指定したセミナーに出席して、原則、それらセミナーに関するレポートを提出する。

衛生学公衆衛生学

科目責任者：武林 亨

①ポピュレーションヘルス・地域保健、②予防医学、③環境医学・産業医学、④医学生物統計・臨床研究支援、のいずれかの分野の研究に参画して、自ら研究計画の立案や統計解析を行う。各分野の詳細は衛生学公衆衛生学のウェブサイトを見ること。原則、隔週で行われる抄読会に参加する（ジャーナルクラブだけでなくオリジナルの解析結果等の発表も行われている）。年度後半には自ら抄読会で発表し、内容をレポートとしてまとめる。
※受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

衛生学公衆衛生学

科目責任者：岡村 智教

①ポピュレーションヘルス・地域保健、②予防医学、③環境医学・産業医学、④医学生物統計・臨床研究支援、のいずれかの分野の研究に参画して、自ら研究計画の立案や統計解析を行う。各分野の詳細は衛生学公衆衛生学のウェブサイトを見ること。原則、隔週で行われる抄読会に参加する（ジャーナルクラブだけでなくオリジナルの解析結果等の発表も行われている）。年度後半には自ら抄読会で発表し、内容をレポートとしてまとめる。
※受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

病理学

科目責任者：坂元 亨宇

病理学的な視点から、病気の成り立ちや仕組み、臨床診断や治療との関係を理解する。病理解剖にて検索された症例の検討会(CPC)に出席して、レポートを提出する。

*CPCの予定は学生課にて確認してください。

レポート5本以上を提出してください。

CPCへの出席が難しい場合は、病理学に関連するセミナーへの出席とそのレポート提出でも可とします。

病理学

科目責任者： 金井 弥栄

4月22日、5月13日、5月27日、6月10日、6月17日、6月24日、7月1日、7月8日、7月15日、9月9日 5限 (16:30-18:00)に東講堂で実施されるclinico-pathological conference (CPC)に3回以上出席し、当該症例3症例について、臨床経過・病理所見をまとめ、①死に至る病態・②臨床的な疑問点が剖検により如何に明らかにされたか、を考察したレポートを作成し提出する。希望者は、当該症例のプレパラートを剖検執刀者と共に鏡検する実習をおこなうことができる。受講者は4月初めに科目責任者の指示を受けてください。

微生物学・免疫学

科目責任者： 小安 重夫

自然免疫反応に関与するマクロファージや顆粒球、自然リンパ球などに関して学習し、自然免疫反応の感染における役割とともに炎症性疾患における機能を学ぶ。指定された論文を読み、その概要をまとめ、自らの意見を添えたレポートを提出する。
*受講者は4月中に科目責任者の指示を受けること。

微生物学・免疫学

科目責任者： 吉村 昭彦

腫瘍免疫、神経免疫を中心に疾患と免疫の関係を理解し、新たな治療法を開発する。(1) 指定したセミナーおよび雑誌会に参加し、自分でも発表を行う。(2)免疫学に関する実験を見学しFACSなど重要な機器の操作を習得する。(3)学部3年生の講義実習に参加してレポート作成を行う。受講者は4月はじめに科目責任者の指示を受けてください。

微生物学・免疫学

科目責任者： 本田 賢也

免疫学と微生物学の基礎を学ぶ。特に常在細菌と免疫系の相互作用と、その臨床応用について学ぶ。微生物学免疫学主催セミナーに出席して、レポートを提出する。
*セミナーの開催についてはメールで連絡します。
*受講者は4月中に科目責任者の指示を受けて下さい。

法医学

科目責任者： 藤田 眞幸

法医学的は犯罪の立証だけでなく、事故防止、紛争の解決にも大きく貢献している分野である。法医学的視点を学び、医療における事故防止や紛争の回避・解決に役立てて欲しいと思っている。

1. 信濃町キャンパスで開講される「法医学」の講義* または、三田キャンパスにおいて実施される「法学部・法医学I」の講義** に出席する。
2. 法医学全般に関するレポートと興味を持った講義についてのレポートを各々1つずつ提出する。

* 8月下旬に5日間の集中講義(全20回)として行われる。

** 9月下旬～1月中旬の金曜日1限に実施(全15回)されるが、詳しい日程と場所については科目責任者に連絡をとること。

医療政策・管理学

科目責任者： 宮田 裕章

別途通知します。

先端医科学

科目責任者： 河上 裕

各種疾患の免疫病態、特にがんの免疫学と免疫療法の基礎研究とトランスレーショナル研究の最新の知見を学ぶ。先端医科学研究所 細胞情報研究部門の研究セミナーや論文抄読会(毎週あり)に参加し、レポートを提出する。また学内の関連セミナーに参加してレポートを提出する。*受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

先端医科学

科目責任者： 佐谷 秀行

指定されたセミナーあるいはジャーナルクラブに出席することにより、がんの発生および悪性化にかかわる生物学的現象、更にその知識に基づく予防および治療戦略について学習する。原則2回のセミナーあるいはジャーナルクラブに出席し、その内容に関する詳細なレポートを提出し、教官と内容について討論を行う。

内科学

科目責任者： 中原 仁

医学部において実施される内科学「神経」の講義シリーズのうち神経疾患各論(1)～(11)を聴講し、それぞれについて400字程度のレポートを提出する。2020年度の講義予定は、11月26日(1, 2限)、27日(3, 4限)、12月1日(3, 4限)、3日(1, 2限)4日(3, 4限)、8日(3, 4限)。*講義日程は変更になる可能性もあるので、受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

内科学

科目責任者： 伊藤 裕

病棟、外来の診療見学や回診、カンファレンスへの参加を通して腎臓・内分泌・糖尿病・代謝疾患の病態、診断、治療についての理解を深める(腎生検、腹膜透析、シャント管理、副腎静脈サンプリング、甲状腺吸引細胞診、インスリンポンプ、持続血糖モニターなどの見学を含む)。*受講者は4月初めに科目責任者の指示を受けて下さい。

内科学

科目責任者： 竹内 勤

リウマチ・膠原病学に関する基本的な知識、研究方法の概要を理解する。指定された臨床あるいは研究カンファレンスに参加する。指定された日時に研究室の見学ならびに基本的な知識、方法に関する指導を受けたのち課題レポートを提出する。受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

内科学

科目責任者： 福田 恵一

毎月1回開催される循環器内科学の基礎、臨床に関する講演会のうち3回程度に出席し、レポートを提出する。

*詳細については、教室にお問い合わせください。

*受講者は4月中に科目責任者の指示を受けて下さい。

内科学

科目責任者： 金井 隆典

概要： 消化器内科の基礎と臨床の理解を深めることを目的とする。以下を選択。
1 月1回程度、臨床カンファレンスに定期的に参加し、症例検討会を経て消化器内科疾患の理解を深め、規定回数のレポートを提出する。
2 基礎研究カンファレンス・セミナーに参加し、指導者の指示のもとで規定回数のレポートを提出する。
* 対象となる修士学生により詳細な内容を調整するため、受講希望者は科目責任者の指示を受けてください。

内科学

科目責任者： 緒方 晴彦

消化器内視鏡(上部・下部・胆膵)に関する基礎知識、診断、治療手技を学び実技を見学する。
1 内視鏡機器の基本構造と画像構築のメカニズムに関する知識を会得する。
2 全消化管ならびに胆膵の解剖学を理解する。
3 上部・下部・胆膵の臓器への内視鏡的アプローチの手技、診断学と治療手技に関する実技を見学する。

内科学

科目責任者： 福永 興壱

呼吸器病学のうち肺がん、喘息・アレルギー、感染症・急性肺損傷、COPDなどについて、その病態ならびに治療、基礎研究から臨床応用への可能性などについて学ぶ。
上記4疾患についての研究班で行われているセミナーに参加する。
* 詳細については科目責任者と要相談。

外科学

科目責任者： 志水 秀行

外科治療を要する心臓血管疾患に関し、最新の手術適応、術前評価、治療戦略、術式(低侵襲治療を含む)、術後管理、術後合併症などに関する知識を深める。指定した内容に関し、適宜知識や経験の確認作業を行い、必要に応じレポートの提出を求める。*受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

外科学

科目責任者： 北川 雄光

外科侵襲学総論、周術期管理の理論、外科腫瘍学総論に関する最新知見を広く学習する。指定された卒後教育セミナーに参加する。各臓器グループによる抄読会に参加する。

外科学

科目責任者： 浅村 尚生

本講義では、以下の内容について概説する予定である。
1) 肺癌の国際病期分類(TNM分類)およびその作成・改訂過程について
2) 各臨床病期における肺癌の標準治療について
3) 肺癌手術の特性および手術の低侵襲性について
4) 臨床試験の方法論ならびに最低限必要な医学統計の知識等についてなど。
*受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

外科学

科目責任者： 黒田 達夫

小児外科学は小児外科腫瘍学、周産期外科学、外科発生学、移植・臨床免疫学などを含む。小児固形腫瘍の細胞特性と制御、出生前病態への介入、臓器形成不全に対する再生医療の応用、臓器移植免疫抑制プロトコルの開発などを中心に学ぶ。※受講者は4月はじめに科目責任者の面談を受けて下さい。

麻酔学

科目責任者： 森崎 浩

手術麻酔を中心とする麻酔学および関連領域医学(集中治療医学・疼痛学・緩和医療学等)の実際を学ぶ。
指定したカンファレンスに出席し、実際を見学の上で、レポートを提出する。
※関連領域については選択が可能である。
※受講希望者は4月中に科目責任者の指示を受けて下さい。

整形外科学

科目責任者： 中村 雅也

骨軟骨、神経、筋肉、靭帯などの運動器の外傷や老化のメカニズムを理解し、創薬や再生医療への応用について学ぶ。指定したセミナーに出席してレポートを提出する。

形成外科学

科目責任者： 貴志 和生

形成外科でどういう疾患を扱っており、またそれぞれに対してどのような治療法があるのかを学ぶ。先天異常、外傷、腫瘍切除後の再建についての概略を学ぶ。指定した3つのセミナーに参加し、それぞれに対してレポートを作成、提出する。※受講者は4月初旬までに科目責任者の指示を受けてください。

小児科学

科目責任者： 高橋 孝雄

大脳新皮質が神経幹・前駆細胞の秩序だった細胞分裂・分化誘導により形成される過程を学ぶ。さらにどのような環境(妊娠中の薬物投与など)・遺伝要因(特定の遺伝子の発現の変動など)が大脳皮質形成過程にどのような影響を与えうるのか、それらがどのようにして発達期の神経疾患の原因となりうるのかについて検討する。※受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

小児科学

科目責任者： 長谷川 奉延

小児内分泌代謝疾患などを中心に、生体の恒常性とその破綻を理解する。指定したカンファレンスに参加する。 *受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

小児科学

科目責任者： 山岸 敬幸

小児循環器専門診療を中心に小児医療について学ぶ。(小児心臓外来、診療カンファレンス、病棟回診等を見学し、小児医療を肌で感じる)
心臓発生学を中心に小児循環器学研究について学ぶ。(モデル動物、iPS細胞などを用いた小児循環器領域の基礎研究ミーティングに参加する)
*原則、論文抄読10本以上、レポート8本以上を提出して下さい。
*受講者は4月中に科目責任者の指示を受けて下さい。

産婦人科学

科目責任者： 田中 守

産科学、特に生殖分野および周産期分野における最先端の臨床、基礎研究内容に精通する。

科目責任者と相談し、以下のコースを選択し、年度内に結果をまとめる。

- 1, 指定されたセミナー、学会に出席し、レポートを提出する。
- 2, 指定された論文を読み、内容をまとめ、新規性および今後の展開についてレポートを提出する。

産婦人科学

科目責任者： 青木 大輔

子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんをはじめとする婦人科がんの治療がどのように診断され、手術や化学療法を中心とした治療の概要について学ぶ。カンファレンスへの参加、臨床現場の見学等に加えて指定した課題に対するレポートを提出する。

※受講者は4月初めに科目責任者の指示を受けてください。

眼科学

科目責任者： 坪田 一男

眼科疾患を中心として、可能な限り最新の検査機器、知見も取り入れ、眼科の基本的症候、検査、診断、治療のプロセスを学ぶ。また眼科からみる全身疾患、および救急外来で遭遇する眼科疾患などを中心に臨床眼科学についても学ぶ。

皮膚科学

科目責任者： 天谷 雅行

皮膚の基本的機能につき理解すると共に、皮膚を場として起こる自己免疫、アレルギーによる炎症性疾患、皮膚腫瘍、感染症等についてその病態と基本的治療法について学ぶ。毎週火曜日14時より実施される患者供覧およびその後の症例検討会に複数回参加する。

泌尿器科学

科目責任者： 大家 基嗣

1. 泌尿器がん(腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌)の研究の実際を、臨床的課題からのテーマの抽出、トランスレーショナルリサーチを中心に学ぶ。
2. 月曜日のカンファレンスと火曜日の回診に参加する。

耳鼻咽喉科学

科目責任者： 小川 郁

難聴、耳鳴などの聴覚障害を中心に、その病態、診断法、治療法および補聴器や人工中耳・人工内耳による聴覚リハビリテーションについて学ぶ。指定したセミナーに出席して、研究についてのディスカッションを行う。

※詳細については、掲示等で確認してください。

※受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

精神医学

科目責任者： 三村 将

以下いずれかに合計4回参加してください。

1. 水曜午後に行われる入退院カンファレンス
 2. 水曜午後に行われる抄読会
 3. 随時行われる初期研修医・専修医向けのクルズス
- *受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

放射線医学

科目責任者： 陣崎 雅弘

画像診断の最近の進歩、画像と対比するための人体の透明化技術、放射線医薬品(核医学)の合成技術、画像下治療技術、などについて学ぶ。指定したセミナーに出席して、レポートを提出する。受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

放射線医学

科目責任者： 茂松 直之

放射線生物学・物理学、悪性腫瘍に対する放射線治療の適応の概要、実際の治療法に関して学ぶ。火曜日の午前午後の臨床・カンファレンスに2回以上参加する。子宮がん・前立腺がんの腔内・組織内照射を半日見学する。レポートを提出する。出席と取り組み態度、レポートで評価する。※受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

リハビリテーション医学

科目責任者： 未定

別途通知します。

歯科・口腔外科学

科目責任者： 中川 種昭

指定したセミナーおよび科目責任者の行う大学院特別講義に出席する。
※受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

薬剤学

科目責任者： 谷川原 祐介

ヒトにおける薬物作用とその個人差を研究する臨床薬理学について学ぶことを目的に、薬物動態、薬物代謝、薬力学、ファーマコメトリクスに関する論文抄読会に出席する。※受講者は4月中に科目責任者の指示を受けてください。

臨床検査医学

科目責任者： 村田 満

以下のいずれかを選択してください。

1. 自分が興味ある専門分野で臨床検査に関わるテーマを決めて文献検索等で深く調査し、レポートに纏める。
2. 臨床検査を体験することを希望する者は5日間程度で病院臨床検査部門を見学し、クルズスを受ける。
3. 臨床検査科で行われているプロジェクト研究に参加し、その結果をレポートに纏める。 *受講者は4月初めに科目責任者の支持を受けてください。

救急医学

科目責任者： 佐々木 淳一

病院前救急診療、救急初期診療、重症病態、災害医療について、総論のみならず実践的な内容を学ぶ。木曜日午前に開催されるカンファレンス(救急診療の基本、救急症例検討、専門医レクチャー)および月曜日午後に開催される外傷症例検討、journal club、集中治療勉強会に参加する。
※ 受講者は4月初めに科目責任者の指示を受けてください。

量子生物学

科目責任者：久保田 真理

生命現象について、何がどのようにはたらいてるのかを明らかにする学問が分子生物学や生化学である。これは、分子レベルでの理解である。さらに、その解明した現象について、なぜ、そのようなはたらきするのかを電子レベルで理解するのが量子生物学である。量子生物学では、量子物理学や量子化学の知識が必要になる。本講義では、量子化学の基礎を理解し、いくつかの生命現象を取り上げ、電子レベルでその現象を理解していく。※受講者は、履習前に科目責任者の指示を受けてください。

漢方医学

科目責任者：三村 將

以下のいずれかに1回以上出席してください。

1.医学部授業

2020年10月14日(水)第3・4限 10月21日(水)第1・2・3・4 第2校舎4階講堂

2.漢方ネットワークフォーラム(年3回予定)

場所日時は随時、漢方医学センターホームページか院内掲示で確認してください。

システム生物学

科目責任者：洪 実

マイクロアレイまたは次世代シーケンサーで得られた大規模遺伝子発現データのコンピュータ解析の夏季集中講義・実習(4時間)に参加し、レポートを書く。

*夏季集中講義・実習は、年一回開催。日程は後日連絡する。

*受講者は4月中に科目責任者と30分の面談を受けてください。

がんのリハビリテーション学

科目責任者：未定

別途通知します。

臨床試験方法論

科目責任者：武林 亨

※p.34 を参照してください。

再生医学

科目責任者：洪 実

ヒト多能性幹細胞(ES/iPS細胞)の維持と分化について集中講義・実習(4時間)に参加し、レポートを書く。

*集中講義・実習は、年一回開催。日程は後日連絡する。

*受講者は4月中に科目責任者と30分の面談を受けてください。

化学

科目責任者： 井上 浩義

本科目は、放射線の安全取扱を中心に学びます。本科目は講義と実習から構成されます。

講義：(1)放射線および放射性同位元素の医学的利用

(2)放射線利用における防護と安全管理

(3)放射線利用資格を取得しよう！

実習：(1)放射線計測器の正しい利用とトレーサビリティ

(2)放射線管理区域内での規則と安全取扱

(3)放射性廃棄物処理の実際

*科目責任者は日吉キャンパス所属ですが、講義と実習は信濃町キャンパスにて行います。

医療経済学

科目責任者： 姉川 知史

※p.35を参照してください。

アントレプレナー修得プログラム

科目責任者： 坪田 一男

アントレプレナー習得プログラムは単位を2単位とし、以下の5つ全てに参加あるいは出席すること、およびレポート提出が必須である。

1. 健康医療ベンチャー大賞への応募と参加
2. 慶應義塾大学医学部産学連携講演会
3. 慶應義塾大学医学部visionary café
4. 慶應義塾大学医学部発ベンチャーサミット
5. 慶應義塾大学医学部発ベンチャー協議会スタートアップセミナー

臨床試験方法論【学期後半】 2単位(秋学期)

科目責任者	教授	武林 亨
科目実施者	准教授	佐藤 泰憲
	特任准教授	中川 敦夫
	特任講師	松嶋 由紀子
	特任助教	竹村 亮

※本科目は信濃町キャンパスで開講します。

授業の一般目標:

根拠に基づいた医療が求められる中で、新たに開発中の薬剤などを実際の臨床場面で適用するに際しては、厳格な試験計画に基づく効果判定が求められるようになってきている。そこで、医薬品や医療技術の評価研究のデザイン、実施、解析、結果の検討などに必要な臨床試験手法やデータ管理、薬事規制を学習する。また、仮想的な臨床試験のプロトコル作成を小グループで行う。

授業計画・内容:

- 11/13(金)
(佐藤 泰憲)
オリエンテーション・講義の進め方
医薬品開発・臨床試験のストラテジー
臨床試験を計画する際に必要となるプロトコルや同意書を理解する
臨床研究と治験の違いを理解し、医薬品開発の仕組みを理解する
臨床試験に必要なもの:プロトコル・同意書作成
- 12/4(金)
(佐藤 泰憲)
臨床試験デザイン1
ランダム化比較試験:ランダム化・盲検化の意義
臨床試験を立案するための方法を理解する
- 12/4(金)
(佐藤 泰憲)
臨床試験デザイン2
クロスオーバーデザイン・要因配置デザイン
臨床試験を立案するための研究デザインを理解する
- 12/11(金)
(佐藤 泰憲)
臨床試験デザイン3
最新のデザイン:アダプティブデザイン・中間解析
臨床試験を立案するための新しい方法を理解する
- 12/11(金)
(長島健悟)
臨床試験デザイン4
メタアナリシスとは
メタアナリシスの方法論・実施方法・結果の解釈を理解する
- 12/18(金)
(松嶋 由紀子)
臨床試験における品質管理・品質保証1
モニタリングとは
臨床試験データの品質管理・品質保証するためのモニタリングを理解する
- 12/18(金)
(竹村 亮)
臨床試験における品質管理・品質保証2
データマネジメントとは
臨床試験データの品質管理・品質保証するためのデータマネジメントを理解する
- 12/25(金)
(榎田祥子)
医薬品開発における知財戦略
医薬品開発における知財戦略の必要性を理解する
- 12/25(金)
(佐藤大作)
市販後安全対策とレギュラトリーサイエンス
医薬品開発における規制当局の役割及びレギュラトリーサイエンスを理解する
- 1/8(金)
(佐藤 泰憲
中川 敦夫)

臨床研究のグループ実習1

グループ討論をしながら臨床研究のプロトコルを作成する

- 11/18(金)
(佐藤 泰憲
中川 敦夫)
実習2
臨床研究の実例のグループ検討
グループ討論をしながら臨床研究のプロトコルを作成する
- 12/15(金)
(佐藤 泰憲
中川 敦夫)
実習発表会1
グループで検討した臨床研究を発表し、討論する
- 13/15(金)
(佐藤 泰憲
中川 敦夫)
実習発表会2, まとめ
グループで検討した臨床研究を発表し、討論する

成績評価方法・基準:

レポート及び実習による評価

平常点:出席状況および授業態度による評価

テキスト(教科書):

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

1. 高久史麿. 臨床試験のABC. 医学書院 2007年 ISBN: 978-4260002967
2. 椿広計. これからの臨床試験—医薬品の科学的評価 - 原理と方法 朝倉書店 1999年 ISBN: 978-4254321852
3. 荒川義弘. 臨床試験の進め方 南江堂 2006年 ISBN: 978-4-524-23842-2
4. 福田治彦. 米国SWOGに学ぶがん臨床試験の実践 第2版. 医学書院 2013年 ISBN: 978-4260018647
5. 丹後俊郎. 新版 無作為化比較試験—デザインと統計解析—. 朝倉書店. 2018年 ISBN-13: 978-4254128819

学習方法

自らの臨床試験の立案、方法の選択、結果の解釈を行い、教員や学生同士での討論を常に行い、自らの創造力、自立力を向上させる。

オフィス・アワー:

メールにてご連絡ください

医療経済学 2単位(3学期)

HEALTH ECONOMICS 2 credits (Winter)

講師 姉川 知史

授業科目の内容・目的・方法・到達目標:

目的: 医療をヘルスケアの観点から、1. 事例教材を使用したケースメソッド、2. 資料を用いた講義メソッドの2つの方法で科目を実施する。医療の分析、評価、解決においては医療経済学 (health economics) とよばれる専門教育分野が世界各国で急拡大している。この科目では、この医療経済学を基礎にして、多様なケーススタディと資料を採用して、医療従事者、政策担当者、企業の観点からマネジメントの在り方を検討する。

背景: 医療は国民の生死・健康にかかわるサービスであり、ヘルスケア産業の中核にある。医療サービス市場は先進各国でGDPの10%を超える巨大な産業であり、しかも多様な専門職、企業、機関がかかわる複雑なシステムである。所定の目的(健康の維持増進)を、社会全体として効率的に公平性を維持し、効果的に行うためには、制度設計とマネジメントが重要である。さらに人口の高齢化、減少が進む日本を代表とする先進国では、いかに医療費を抑制しつつ、健康を増進するかという経済の課題にも直面する。

方法: 科目を2つの柱で構成する。第1は下記の題材を中心に、事例教材を使用したケースメソッド授業を行う。ここでは事例教材を読んで、分析する予習を前提にして、クラス内では集団討議を行う。第2は、重要な論点を取り上げて、その制度、理論を講義形式で議論する。さらに学生のReport課題として医療における特定の具体的題材を取り上げ、具体的提言を行う。

目標: 学生がヘルスケアに関する概略、背景を理解すること。それに基づいて、重要な課題について分析する能力を獲得し、実際のヘルスケアの管理におけるマネジメント能力を獲得すること。

授業の計画:

<本システムは、学年開始前に確定され、その後に修正ができないため、最新の内容は、以下の方法で参照してください。>

- KBS在校生は、在校生向けページに掲載するコースアウトラインを参照ください。
- KBS在校生ならびに他研究科の学生その他は担当講師のHPを参照ください。

I. Case Methodによるヘルスケア、倫理、ガバナンスModule

ケーススタディと設問は事前に学校から提示される。

II. Lecture Methodによる医療経済学

- 序 医療システムの概要: 日本の社会保障制度概説、資金循環
- 医療の経済的特徴、情報の非対称性、医療需要、医療供給者誘発需要
- 医療サービスの経済的評価の方法と実証: CBA, Conjoint, Hedonic Pricing, WTP, QALY
- 医療と技術: Health Technology Assessment 医療のITC
- 情報と医療: 情報の不確実性, Principal agent, Moral hazard, Asymmetry
- 医療保険: 公的保険と私的保険
- 医療の価格と需要: 診療報酬の役割
- 人的資源: 医師、看護師、技師、その他の人的教育と労働市場とマネジメント
- 物的資源: 設備投資と資金調達とマネジメント
- 社会的共通資本と医療の公共性
- 医療と意思決定
- 規制の経済学とマネジメント
- 人口、高齢化、地域経済学 Smart City
- マクロ経済学と医療-GDP、医療費、社会保障費
- 医療費の経済分析-計量経済学
- 医療の関連産業: 医療機器、福祉機器、国際福祉機器展見学
- 医療の関連産業: 医薬品
- 国際比較1 先進国
- 国際比較2 開発途上国
- 幸福の計量経済学
- 他

資料集が事前に学校から提示される。

成績評価方法:

授業参加60%(ケースメソッド討論参加)

宿題・レポート40%(グループ・プロジェクトも可、要相談)

テキスト(教科書):

Pindyck and Rubinfeld Microeconomics 8/e, 2012 Pearson

あるいはその翻訳『ピンダイク&ルービンフェルド ミクロ経済学 I,II』中経出版, 2014

ポール G.ホーエル(著), 浅井 晃(翻訳), 村上 正康(翻訳)『初等統計学』培風館; 第4版, 1981.

参考書:

多数、主要文献のコースパック配布予定

それを含めて、講師のHP該当箇所参照

担当教員から履修者へのコメント:

関連する前提科目: 経済理論I, 経済理論II, 統計学入門

質問・相談:

授業後の30分あるいは講師 e-mail 予約

医学研究科委員(修士課程)一覧

所属	職位	氏名	フリガナ	専門領域	研究内容
解剖学教室	教授	仲嶋 一範	Kazunori Nakajima	大脳皮質の発生・分化機構の解明	中枢神経系、特にさまざまな高次脳機能を担う大脳皮質の細胞が、どこでどのように誕生し、その後どのような制御を受けてあるべき場所へと移動して、最終的に事な機能を担うネットワークを形成していくのかを、分子・細胞レベルで明らかにする。さらに、発生過程の様々な擾乱によってそれが破綻するメカニズムを解明することを目指す。
解剖学教室	教授	久保田 義顕	Yoshiaki Kubota	血管生物学・発生学	最新のイメージング技術を駆使した遺伝子改変マウスの解析により、血管をはじめとする組織構築の高次構造の形成過程を明らかにする。
生理学教室	教授	岡野 栄之	Hideyuki Okano	中枢神経系の発生と再生	神経幹細胞・iPS細胞技術を用いた、中枢神経系の再生医学研究と精神・神経疾患の病態解明を行う。また、遺伝子改変霊長類技術を開発し、精神・神経疾患モデルの作出、高次脳機能と脳の進化のメカニズムの解明を目指す。
生理学教室	教授	柚崎 通介	Michisuke Yuzaki	記憶・学習の基礎としてのシナプス形成・可塑性	発達期に特定の神経細胞の間にシナプスが形成されるとともに、シナプスの形態と機能は、環境と神経活動に応じて生涯にわたって変化し、記憶・学習機構の基盤となる。これらの過程の解明を目指して電気生理学・分子生物学・行動生物学を統合的に用いる。
薬理学教室	教授	安井 正人	Masato Yasui	水分子の生命科学・医学 (Water Biology & Medicine)	水チャネル、アクアポリンの構造・機能相関を生化学的アプローチと分子動力学シミュレーションの両面から解析する。特に脳のアクアポリンの制御機構、高次機能を研究し、創薬の基盤を築く。また、脳のリンパ排泄におけるアクアポリンの役割、アルツハイマー病との関連を研究する。
医化学教室	客員教授	末松 誠	Makoto Suematsu	病態生化学 (Gas Biology) : ガスによる生体制御の生物学、微小循環学、代謝システム生物学	ガス分子による新しい代謝制御の分子機構を追究する一方、メタボロームや質量顕微鏡を活用した代謝システム生物学を推進している。
分子生物学教室	教授	塩見 春彦	Haruhiko Siomi	RNA生物学	RNA関連分子経路の解析を通して、これら分子経路によるゲノムの品質管理機構と幹細胞形成・維持機構への関与を理解する。また、その異常による疾患発症機構の理解とその治療戦略への応用を目指している。
衛生学公衆衛生学教室	教授	武林 亨	Toru Takebayashi	予防医学、環境・産業保健	予防医学分野では、メタボロミクスを含む多層オミックス解析を用いた疫学研究に基づく精緻化された疾患予測モデルの構築など、予防医学研究を実施している。環境保健、産業保健分野では、疫学研究、実践研究、リスク評価研究を行うとともに、基準設定や標準化を通じて、社会的な予防活動に従事している。
衛生学公衆衛生学教室	教授	岡村 智教	Tomonori Okamura	公衆衛生学、生活習慣病の疫学、栄養疫学、地域医療学、国際共同研究	大規模コホート共同研究や国際比較研究を通じて、生活習慣病の発症を予測するためのバイオマーカーの探索、適切な予防につながる食生活等の生活習慣改善手法の解明を目指している。また健康教育や市民啓発を通じた地域介入研究、政策疫学研究(健康日本21、データヘルス)、臨床系の診療ガイドラインの疫学知見の提供やエビデンス構築などを実施している。
病理学教室	教授	坂元 亨字	Michiie Sakamoto	腫瘍病理、肝臓病理、分子病理、病理情報	がんの発生進展過程の分子機構解明、個別病理診断の確立、定量的病理診断と病理のIT化。
病理学教室	教授	金井 弥栄	Yae Kanai	腫瘍病理学・疾患エビデンス・多層オミックス統合解析	諸臓器がん・病理形態学的に認識される前がん病変・発がんの素地となる代謝性疾患・炎症性疾患等における、エピゲノム解析ならびに多層オミックス統合解析に基づき、疾患発生の分子機構を解明して発がんリスク診断等を可能にし、ゲノム医療・予防先制医療の基盤を構築することを目指している。
微生物学・免疫学教室	客員教授	小安 重夫	Shigeo Koyasu	免疫学、細胞生物学	分子細胞生物学的手法とマウスモデルを駆使し、自然免疫系と獲得免疫系の制御機構の解明を目指している。現在は特に自然リンパ球の機能に着目している。
微生物学・免疫学教室	教授	吉村 昭彦	Akihiko Yoshimura	分子免疫学 サイトカインと炎症を中心とした疾患の病態解明	1. CIS/SOCSファミリーとサイトカインによる免疫調節機構の解明 2. 炎症を中心に各種疾患におけるサイトカインとそのシグナルの意義の解明 3. Spred/Sproutyファミリーの機能解析 4. T細胞リプログラミング
微生物学・免疫学教室	教授	本田 賢也	Kenya Honda	免疫学、微生物学、腸内細菌学	腸内細菌が宿主にどのような影響を与えているかを明らかにし、疾患治療に応用することを目指す。また病原体に対する宿主応答機構解明にも取り組んでいる。
法医学教室	教授	藤田 眞幸	Masaki Q. Fujita	突然死の研究、法医学的客観的診断基準の確立	ホックリ病を代表とする若年者の突然死につき、東南アジアでの実態調査、遺伝子解析や疫学的比較研究を行い、その原因、素因を究明することを目指している。また、より客観性の高い法医学的診断法の確立を進めている。
医療政策・管理学教室	教授	宮田 裕章	Hiroaki Miyata	医療政策・管理学、医療の質、疫学、政策評価、社会科学方法論	i. 臨床現場が主体となる医療の質の改善、ii. 診断治療法・医療技術の継続的な革新、iii. ステークホルダーの連携による持続可能な最善の提供体制、などを実現するための臨床研究、医療政策研究を行う。
坂口光洋記念講座 (システム医学講座)	教授	洪 実	Minoru Ko	哺乳類初期胚と幹細胞、実験と計算機によるシステム医科学	網羅的実験手法と計算機を駆使して、遺伝子発現ネットワークの構造と動態を解明する。細胞組織の再生、若返り方法を研究し、長寿健康を促進する医療への応用を目指す。システム手法の医学医療への応用を推進する。
坂口光洋記念講座 (オルガノイド医学)	教授	佐藤 俊明	Toshiro Sato	オルガノイド医学	様々な組織細胞を培養皿の中で3次元組織構築体として培養する方法、オルガノイド培養を用い、組織の生物学的な振る舞いを研究している。特に、がん研究や再生医学への応用を中心に研究を行っている。
先端医科学研究所 (細胞情報研究部門)	特任教授	河上 裕	Yutaka Kawakami	免疫疾患(がん・自己免疫疾患など)の病態解明と制御法開発	がん・自己免疫疾患・移植・感染症などの免疫関連疾患の免疫病態の解明と、免疫制御のための免疫療法・遺伝子治療の開発、がん微小環境の病態解明と分子標的治療の開発。
先端医科学研究所 (遺伝子制御研究部門)	教授	佐谷 秀行	Hideyuki Saya	悪性腫瘍形成の分子機構	1) 癌幹細胞の性状解析と治療戦略開発 2) 癌細胞浸潤・転移・再発の分子機構解析 3) 癌組織の不均一性と癌細胞の可塑性の解析
内科学(循環器)教室	教授	福田 恵一	Keiichi Fukuda	心筋細胞の再生による難治性心不全の治療法開発	iPS細胞等を用いた心筋細胞再生と、これをもちいた種々の心疾患の病態解明、治療法の開発、再生医療の研究を進めている。心不全と交感神経機能の相関関係、心臓弁膜症の発症機軸、肺高血圧症の治療法開発等の多方面の研究を展開している。
内科学(呼吸器)教室	教授	福永 興老	Koichi Fukunaga	呼吸器内科 炎症性肺疾患(喘息・COPD)、睡眠時無呼吸症候群	炎症性肺疾患特に重症喘息を中心にその病態や新規治療法に関する研究をおこなっている。また睡眠時無呼吸症候群患者のスクリーニング、治療効果評価法についての研究もおこなっている。
内科学(消化器)教室	教授	金井 隆典	Takanori Kanai	消化器病領域の免疫疾患の基礎・臨床研究	炎症性腸疾患、肝臓・膵臓免疫疾患の病態の解明と創薬を主眼とした臨床開発。免疫学、遺伝学、栄養学の融合を目指した予防医療の開発。
内科学(神経)教室	教授	中原 仁	Jin Nakahara	神経治療学	神経内科領域のあらゆる疾患を対象に、先進的なトランスレーショナル・リサーチから在宅医療まで、手段を問わず患者の生命の質(quality of life)を改善させる治療の具現化に向けた研究を行っている。
内科学(リウマチ)教室	教授	竹内 勤	Tsutomu Takeuchi	自己免疫病の分子機序の解析とその制御、それを標的とする治療法の開発	自己免疫疾患(関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、など)の病態形成に関わる分子異常を解析し、その異常分子標的に対する制御法の開発とそれを臨床応用するためのトランスレーショナル研究の展開。最新の分子標的治療薬によるテーラーメイド治療法の構築。

所属	職位	氏名	フリガナ	専門領域	研究内容
内科学(腎臓・内分泌・代謝) 教室	教授	伊藤 裕	Hiroshi Itoh	生活習慣病、メタボリックシンドロームとその腎・血管合併症に関するトランスレーショナルリサーチ	高血圧症、糖尿病、肥満など生活習慣病とその重積であるメタボリックシンドロームおよび腎・血管合併症の分子機構を内分泌代謝学的に明らかにし、未病医学、抗加齢医学、再生医学の観点より新規医療法開発に応用するトランスレーショナルリサーチを推進している。
外科学(一般・消化器) 教室	教授	北川 雄光	Yuko Kitagawa	消化器外科学、外科腫瘍学、内視鏡外科、固形癌集学的治療、外科感染症、外科侵襲と生体反応、Sentinel node navigation surgery	癌リンパ節転移機構の解明とその制御をSentinel node理論に立脚したアプローチで研究。癌微小転移や末梢血中癌細胞の検出法を応用した、消化器癌集学的治療の個別化の実現。高度外科侵襲や外科系感染症に伴う生体反応に関する研究。
外科学(小児) 教室	教授	黒田 達夫	Tatsuo Kuroda	小児がんの細胞動態、胎児外科	小児がんの分子生物学的手法による微小転移検出ならびに細胞動態解析を臨床研究とあわせて総合的に分析している。胎児呼吸器疾患の病理学的検討から胎児外科症例の適応を分析している。
外科学(心臓血管) 教室	教授	志水 秀行	Hideyuki Shimizu	心臓血管外科学、大動脈ステントグラフト治療、低侵襲心臓血管外科手術、臓器保護法、人工臓器	心臓・大血管領域の疾患に対する高難度手術・低侵襲治療の実践を基盤とした術式開発、臓器保護法に関する研究。大動脈瘤・大動脈解離の病態解明と新たな診断法・治療法の開発。
外科学(呼吸器) 教室	教授	浅村 尚生	Hisao Asamura	呼吸器外科学、胸部腫瘍学、癌の病期分類、がん登録と診療科データベース、低侵襲胸部外科手術	肺癌、胸腺腫、胸膜中皮腫など胸部悪性腫瘍の集学的治療、外科治療を含む癌の臨床試験の方法論の構築、悪性腫瘍の病期分類法の改訂(UICC)、低侵襲の肺癌悪性腫瘍の治療法の開発、肺癌登録の方法論の構築と結果の解析
整形外科教室	教授	松本 守雄	Morio Matsumoto	脊椎外科、低侵襲脊椎手術、側弯症	脊椎手術に必要な人工素材の開発、側弯症の疾患感受性遺伝子同定、側弯症に対する新しい手術法や評価法の開発、脊椎疾患に対する多施設共同研究、脊椎の加齢変化に関するMR Iを用いた研究、脊椎手術の侵襲性の評価に関する研究などを行っている。
整形外科教室	教授	中村 雅也	Masaya Nakamura	脊椎脊髄外科、脊髄疾患の外科的治療、神経科学(脊髄再生、栄養因子・neuroimaging)	臨床では脊椎脊髄疾患の病態解明を、基礎では運動器の再生医療、特に脊髄再生医療を目指して、1) iPS細胞を用いた移植治療、2) 肝細胞増殖因子、3) 軸索伸長阻害因子の抑制剤、4) MRIによる新たな評価法等の開発に取り組んでいる。
形成外科教室	教授	貴志 和生	Kazuo Kishi	皮膚付属器を含めた皮膚の再生	マウス胎仔の皮膚創傷後の再生現象を基に、皮膚付属器を含めた完全な皮膚の再生を成獣由来の細胞を用いて再現する方法の開発を進めている。また、その細胞生物学的、分子生物学的メカニズムの解析を行っている。
小児科学教室	教授	高橋 孝雄	Takao Takahashi	発達神経生物学、細胞周期、神経幹細胞、大脳皮質発生	小児神経疾患の多くは高次脳機能の発達障害と密接に関連している。大脳皮質の正常発生・異常発生における神経前駆細胞の分裂増殖・分化誘導に関する研究を通じて、小児神経疾患の原因究明、治療法確立を目指す。
小児科学教室	教授	長谷川 奉延	Tomonobu Hasegawa	成長および性分化の分子遺伝学的機序	ヒトの成長および性分化(あるいは成長障害および性分化疾患)の分子遺伝学的機序をヒトの疾患と体質、マウスモデルを用いて解析し、同時に成長障害および性分化疾患に対する新しい治療法を開発する。
小児科学教室	教授	山岸 敬幸	Hiroyuki Yamagishi	小児循環器学、臨床心臓発生学	先天性心疾患は、生命に直結する最も頻度の高い先天異常である。先天性心疾患の予防および再生医療を実現するために、心臓大血管の発生学、分子生物学、分子遺伝学的手法により、先天性心疾患の成因と分子機構を解明する。
産婦人科学(婦人科) 教室	教授	青木 大輔	Daisuke Aoki	婦人科腫瘍学、婦人科病理学、分子細胞遺伝学、遺伝性腫瘍、婦人科がんの妊孕性温存治療、がん検診	婦人科腫瘍学を基盤として、がん細胞に特徴的に発現する抗原による癌の特性診断、分子細胞遺伝学的な知見やエピゲネティクスの解析に基づくがんの新たな予防・治療戦略の開発や遺伝性婦人科癌の遺伝子診断に取り組んでいる。
産婦人科学(産科) 教室	教授	田中 守	Mamoru Tanaka	周産期医学、生殖医学、臨床遺伝学、発生学	哺乳類の個体の発生に関する分子生物学、胎児診断・胎児治療までの胎児医学、さらに間葉系幹細胞を用いた周産期疾患の治療の研究開発を行っている。
眼科学教室	教授	坪田 一男	Kazuo Tsubota	角膜移植、ドライアイ、屈折矯正手術、再生医学、近視、老眼、抗加齢医学、ヘルスサイエンス、フードサイエンス、イノベーション	角膜再生、シェーグレン症候群やVDT関連ドライアイのメカニズム解明と治療法の開発。近年では、加齢黄斑変性、白内障、老眼、緑内障などの加齢性疾患への抗加齢医学による治療と予防、ヘルスサイエンス、フードサイエンスの取り組みとともに、眼光学とQOL、近視のメカニズムおよび予防法の研究、さらに大学発の産業創生、イノベーションと、その教育・人材育成にも注力している。
皮膚科学教室	教授	天谷 雅行	Masayuki Amagai	自己免疫、アレルギー、皮膚バリア、皮膚免疫	免疫臓器としての皮膚組織を見ることにより、見えてくるより普遍的な免疫現象を明らかにし、臓器を超えた自己免疫疾患の病態を解明する。アレルギー疾患発症機序を皮膚バリア傷害の観点から分子レベルで明らかにし、アレルギー疾患の予防、制御法を開発する。重症薬疹の病態を解明する。
泌尿器科学教室	教授	大家 基嗣	Mototsugu Oya	泌尿器がんの発生・進展のメカニズムの解明と新規治療法の開発	前がん病変から癌の成立、転移巣への進展までのメカニズムの統合的理解を目指し、サイトカインの産生や血管新生などの細胞生物学的特徴に焦点を当て、新規治療法の開拓を行う。
耳鼻咽喉科学教室	教授	小川 郁	Kaoru Ogawa	内耳感覚細胞の保護および再生機構、耳鳴の中枢抑制機構の解明	難聴性である慢性感音難聴および耳鳴に対する新しい治療法の確立を目的として、1) 内耳感覚細胞(聴覚・平衡覚)の再生、および2) 音響外傷等の各種障害からの細胞保護機構に関する研究を行っている。
精神・神経科学教室	教授	三村 将	Masaru Mimura	神経心理学および老年精神医学	脳損傷による高次脳機能障害と認知症を対象として、病態解明や治療・リハビリテーション技法の開発を行っている。また、うつ病を中心とする種々の精神神経疾患の認知障害について神経機能画像を用いて解析している。
放射線科学(診断) 教室	教授	陣崎 雅弘	Masahiro Jinzaki	画像診断学	1. 循環器・泌尿器領域を中心にその時代の最優秀な画像診断アルゴリズムを構築することに取り組んでいる。 2. 新たな機器や手法の開発を行いながら人体の更なる可視化を目指している(末梢神経系、リンパ系、微小循環系)。 3. 4次元動画画像の臨床応用を検討している。
放射線科学(治療) 教室	教授	茂松 直之	Naoyuki Shigematsu	放射線腫瘍学、放射線生物学	臨床研究では各種癌治療における定位放射線治療・強度変調放射線治療・画像誘導放射線治療および組織内・腔内照射の適応拡大。放射線抗癌剤併用治療の有用性の検討。基礎研究では、放射線照射による染色体・遺伝子変異の定量、および放射線治療効果を予測するための分子生物学的検討を行っている。
麻酔学教室	教授	森崎 浩	Hiroshi Morisaki	敗血症心機能・腸管壁防御機構と保護手段・揮発性麻酔薬と微小循環障害・硬膜外麻酔と免疫機構	侵襲から生体を防御する医学を推進し、現在は敗血症心保護法の開発、腸管壁防御機構と保護手段の開発、麻酔深度ならびに硬膜外麻酔による生体免疫機構等の研究に従事している。
救急医学教室	教授	佐々木 淳一	Junichi Sasaki	救急医学、外傷学、熱傷学、外科感染症学、感染制御、侵襲と生体反応・薬物体内動態	侵襲病態下の生体反応機構、感染症治療薬など体内動態等の解析を行い、新規治療法の確立を目指す。再生医療(細胞技術の熱傷治療への応用など)の導入により、侵襲病態下の新規治療法の開発を目指す。
歯科・口腔外科学教室	教授	中川 種昭	Taneaki Nakagawa	歯周病学	1) 歯周病原細菌に関する研究 2) 間葉系幹細胞、iPS細胞を用いた口腔組織再生に関する研究 3) 歯周病原細菌に対する抗菌薬の感受性と臨床的有効性の解析 4) 音波歯ブラシの清掃性に関する臨床研究
臨床検査医学教室	教授	村田 満	Mitsuru Murata	遺伝子診断、臨床検査標準化、血栓性疾患の病態解明と予防、血小板の基礎研究	ゲノム情報や遺伝子解析技術を駆使した新しい遺伝子診断法を診療の場に生かす為の研究、広く臨床検査の標準化と普及を行っている。血栓形成の機序を分子学的見地から解明し、先天的、後天的危険因子を同定することにより有効な予防と治療を確立する。また血小板造血の基礎研究と新たな血小板機能評価法の確立を目指している。

所属	職位	氏名	フリガナ	専門領域	研究内容
臨床薬理学教室	教授	谷川原 祐介	Yusuke Tanigawara	薬物動態学、臨床薬理学	ヒトにおける薬効発現の個人差要因の解明と最適投与の方法論に関する臨床薬理学研究を中心に、薬物体内動態、薬力学、ゲノム薬理学、ファーマコメト릭スを研究する。
共同利用研究室 (細胞組織学研究室)	教授	松尾 光一	Koichi Matsuo	骨の細胞組織学	骨の形態形成と恒常性維持のメカニズムを、細胞間相互作用によって解明することを目指している。
医学教育統轄センター	教授	平形 道人	Michito Hirakata	医学教育学、リウマチ内科学、臨床免疫学	“医学教育学：質の高い医学教育を目指して、入学選抜の改革、プロフェッショナルリズム教育、シミュレーション教育、コンピテンシー基盤型教育、基礎-臨床一体型医学教育を研究している。 リウマチ学・臨床免疫学：リウマチ性疾患・膠原病などの自己免疫疾患の特徴とされる「自己抗体」の産生機序、臨床的意義、病態形成機序を追究している。”
医学教育統轄センター	教授	門川 俊明	Toshiaki Monkawa	医学教育学、腎臓内科学	医学教育においては、ICTを用いた医学教育手法の開発、多職種連携教育の推進など。腎臓内科学においては、水・電解質・酸塩基平衡異常の解明、尿細管の分化、再生機構の基礎的研究。
感染制御センター	教授	長谷川 直樹	Naoki Hasegawa	臨床感染症学、感染制御学	肺炎球菌感染症、インフルエンザウイルス感染症、結核・非結核性抗酸菌感染症、HIV感染症の病態を解明し、これらの疾患の迅速診断法や疾患活動性や治療効果を反映するバイオマーカーの探索、ワクチンを含む治療法の確立を目指す。気管支鏡下で気道被覆液を採取し各種抗菌薬の肺内動態を評価する。
内視鏡センター	教授	緒方 晴彦	Haruhiko Ogata	炎症性腸疾患の病態解明・新規治療法開発、消化管疾患の内視鏡診断・治療	Image enhancingならびに超拡大機能を搭載した内視鏡機器を用いた消化管粘膜のin vivo観察による炎症性腸疾患の病態解明と、付加価値機能や全消化管観察が可能な近未来型カプセル内視鏡の開発。
腫瘍センター (低侵襲療法研究開発部門)	教授	矢作 直久	Naohisa Yahagi	消化管腫瘍の低侵襲治療	低侵襲治療の代表的なものである内視鏡治療および腹腔鏡治療に関する新たな手技の開発、治療機器の開発を行っている。さらに内視鏡および腹腔鏡の融合した新たな治療手技や、NOTESに関する機器開発を行っている。
輸血・細胞療法センター	教授	田野崎 隆二	Ryuji Tanosaki	血液内科、造血幹細胞移植、輸血、細胞治療	悪性リンパ腫、特に成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)に対する同種ミニ移植や免疫細胞療法。輸血全般。細胞療法のための細胞処理・製造のためのセルプロセッシングセンター(CPC)の管理・運営。
臨床遺伝学センター	教授	小崎 健次郎	Kenjiro Kosaki	臨床遺伝学、先天異常学、小児科学	ゲノム科学の進歩を診療に応用している(稀少疾患の診断・治療・遺伝カウンセリング)。稀少疾患の分子遺伝学的解析を通じて、病態の解明を目指している。特に未診断疾患Undiagnosed diseasesの研究に注力している。
トランスジエネリサーチ	教授	副島 研造	Kenzo Soejima	臨床研究推進センター 呼吸器内科学、臨床腫瘍学	ゲノミクス、エピゲノミクス、プロテオミクスおよびメタボローム解析を用いた肺癌における分子標的治療薬耐性化機構の解明、耐性化機構克服のための新たな治療戦略の開発を目指している。
物理学教室	教授	三井 隆久	Takahisa Mitsui	柔らかい物質の表面もしくは内部の運動計測	物質内部や表面は熱運動している。この測定により、熱揺らぎに対する知見が得られるだけでなく、非接触で湿潤や弾性を測定することができる。様々な物質で計測を行い、臨床診断への応用を探索している。
生物学教室	教授	梶村 真弓	Mayumi Kajimura	脳血流と代謝のカップリング	脳血流は局所の神経活動・代謝と連関しており、この現象はneurovascular coupling (NVC)と呼ばれています。低分子代謝物の時空間的な偏在情報(「いつ、どこで、どれくらい」)を評価することにより、脳代謝調節の根幹をなすNVCの分子実体の解明を目指しています。 (http://k-ris.keio.ac.jp/Profiles/74/0007369/profile.html)
化学教室	教授	井上 浩義	Hiroyoshi Inoue	放射線学、創薬化学、天然物化学	放射性同位元素の濃縮・除去の方法の研究を行っており、信濃町地区の放射線管理責任者でもある。また、分子認識方法としてアプタマーおよび標識放射性同位元素を用いて、生活習慣病および加齢関連因子認識物質および検出方法を開発している。加えて、天然物由来機能性物質の探索・薬理研究および製造方法の開発を行っている。
文学部	教授	奈良 雅俊	Masatoshi Nara	倫理学、医療倫理学	臨床や医学研究の現場で提起される倫理的問題に倫理学の理論と方法を用い分析している。現在は、生殖医療における倫理的問題、医学研究における不正行為、個人情報保護、利益相反を研究している。
経営管理研究科	教授	中村 洋	Hiroshi Nakamura	産業組織論(ライフサイエンス産業、ヘルスケア産業)、経営戦略論	ライフサイエンス産業において革新をもたらすための企業の経営戦略ならびに組織改革、革新的製品の創出と患者・財政負担の軽減を両立させる政策、ヘルスケア産業における院内・外での多職種連携のあり方についての考察

奨学金制度・慶應義塾大学教育ローン制度について

I 奨学金

1. 日本学生支援機構奨学金について

独立行政法人日本学生支援機構による国の奨学制度です。医学研究科では、修士課程入学後の4月頃募集します。選考基準は、人物学業ともに優秀で、経済的理由により修学が困難な者となります。推薦枠は限られており、学内選考後日本学生支援機構へ推薦します。

第一種（無利子）	第二種（有利子）
●貸与月額： 50,000円 88,000円（選択）	●貸与月額： 50,000円 80,000円 100,000円（選択） 130,000円 150,000円
●貸与期間：2年間（標準修業年限）	●貸与期間：2年間（標準修業年限）
●利子：なし	●利子：上限3%（固定型、見直し型を選択） 在学期間は無利子

【主な申請資格】

- (1) 大学院生であること

※次の者は対象外

原級に留まっている者、標準修業年限を超えて在籍している者、前大学院で修業年限の全期間奨学金を貸与され修了または退学後、大学院当該課程に再入学した者（第一種のみ）、日本学術振興会特別研究員に採用されている者

- (2) 総収入金額（配偶者分含む）が基準内であること

第一種：389万円以下

第二種：536万円以下

併用：284万円以下

※今年の年収額が昨年と大幅に異なる場合は見込み年収額で審査されます。

【保証形態】

人的保証（連帯保証人と保証人をつける）もしくは機関保証（保証会社に保証料を支払う）を選択。

【奨学生の主な義務】

日本学生支援機構法等に準じ定期的な書類提出等の義務が生じます。

- (1) 借用額の「返還誓約書」および各種証明書を提出する。
- (2) 毎年12月に「奨学金継続」のための手続き（インターネット入力）を行う。失念すると廃止となる。
- (3) 住所・氏名変更や留年・退学時には、所定の手続きを行う。

多少の制約はありますが、経済的理由により修学が困難な者にとっては有益な制度です。また、奨学金貸与期間中に特に優れた業績を挙げた者を対象に、返還免除制度も設けられています。詳細は、日本学生支援機構ホームページや「慶應義塾大学大学院奨学金案内2020年度」の冊子で確認して下さい。

2. 学内および医学研究科独自の奨学金について

【研究のすゝめ奨学金】

対象者：原則、入学者全員

給付金額：30万円・50万円・70万円（年額） ※審査により決定

申請方法は、入学後のガイダンスで説明予定。

※入学者が採用予定人数に満たなかった場合、成績優秀な修士課程2年生に給付予定。

【その他学内・医学研究科独自の奨学金】

募集内容 奨学金名称	種類	金額	定員	対象者	選考基準			期間
					成績	家計	人物	
慶應義塾大学 大学院奨学金 (非留学生4~5月頃 留学生10月頃)	給費	非留学生 年額 600,000円 留学生 年額 500,000円	若干名	大学院生	優秀	日本学生支援 機構の第一種 家計基準に準 じるが、その他 家庭の事情等 が考慮される 場合がある。	優秀	1年間
小泉信三記念大学院 特別奨学金 (12月中旬頃)	給費	月額 30,000円	若干名	大学院生	優秀	—	優秀	1年間
慶應義塾大学大学院 医学研究科修士課程 奨学金 (2月中旬頃)	給費	年額上限 1,000,000円	若干名	医学研究科修士課 程2年生で、翌年 度慶應義塾大学医 学研究科博士課程 に進学する者	優秀	—	優秀	1年間

※ 民間企業や地方公共団体の奨学金は、所定の掲示板に随時掲示します。こまめにご確認下さい。

<申請上の注意>

各募集要項については、医学研究科掲示板（孝養舎外1階 奨学金掲示板）にて掲示します。

要学生証、代理・郵送での申請不可。締切厳守。

* 「学外研究届」を学生課学事担当に提出している方に限り、理由書等を添付の上、代理申請可。
その際は、必ず事前に学生課学生生活担当にご連絡ください。

* 学会・外勤等、個人的な理由での代理申請、期間外申請は一切認めません。その他、やむを得ない事情がある場合、期日より前にご本人が、学生課学生生活担当窓口にてご相談下さい。

II 慶應義塾大学教育ローン制度

本学には、在学学生を対象とした提携金融機関4行との「慶應義塾大学教育ローン制度」

があります。金融機関の審査で承認されれば、この制度を利用することができます。

融資条件等は金融機関によって異なりますので、事前に詳細をご確認下さい。

資料は学生課窓口で配布しています。

(奨学金等のご相談)

孝養舎1階 学生課学生生活担当へお気軽にお越し下さい。

※ 「慶應義塾大学奨学金案内」の冊子はこちらの窓口で配布します。

※ 開室時間 8:45-16:45 (土日祝日および義塾の定める休日を除く)

大学院医学研究科修士課程2020年度修正履修申告書

学籍番号: _____

学生氏名: _____ 印

指導教授: _____ 印

削除	追加	科目名	学期	担当者	単位
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		

※削除または追加欄に○を付してください。

医学研究科委員長 殿

学籍番号： _____

学生氏名： _____ 印

指導教授： _____ 印

他研究科修士課程等設置の授業科目の履修について

大学院学則第86条の5により、下記のとおり履修いたしたく、指導教授の承認の上申請いたしますので、ご許可くださるようお願い申し上げます。

記

1 設置科目の担当研究科・学部名等

① 塾内機関の場合

_____ 研究科修士課程・ _____ 学部 _____ 研究所

② 塾外機関の場合

名称： _____

住所： _____ 電話： _____

2 履修希望科目名

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

3 履修を必要とする理由

年 月 日

医学研究科委員長 殿

学籍番号： _____

学生氏名： _____ 印

指導教授： _____ 印

経営管理研究科との共通科目の単位認定について

経営管理研究科において取得済みの下記科目について、単位認定を申請いたしますので、ご配慮下さいますようお願い申し上げます。

記

科目： _____ 単位(時間数)： _____

科目： _____ 単位(時間数)： _____

科目： _____ 単位(時間数)： _____

科目： _____ 単位(時間数)： _____

科目： _____ 単位(時間数)： _____

以上

※成績証明書を添付して下さい。

(学生課使用欄)

成績証明書	有 ・ 無
研究科委員会 承認日	年 月 日
決定事項	科目名： 単位数 評価 科目名： 単位数 評価
備 考	

年 月 日

医学研究科委員長 殿

学籍番号： _____

学生氏名： _____ 印

指導教授： _____ 印

リーディング大学院プログラムによる単位認定について

_____ 研究科において取得済みの下記科目について、単位認定を申請いたしますので、ご配慮下さいますようお願い申し上げます。

記

①医学研究科の入学前先取り科目

科目： _____ 取得年度： _____ 単位： _____

科目： _____ 取得年度： _____ 単位： _____

科目： _____ 取得年度： _____ 単位： _____

科目： _____ 取得年度： _____ 単位： _____

②第一研究科での取得済科目

科目： _____ 取得年度： _____ 単位： _____

科目： _____ 取得年度： _____ 単位： _____

科目： _____ 取得年度： _____ 単位： _____

科目： _____ 取得年度： _____ 単位： _____

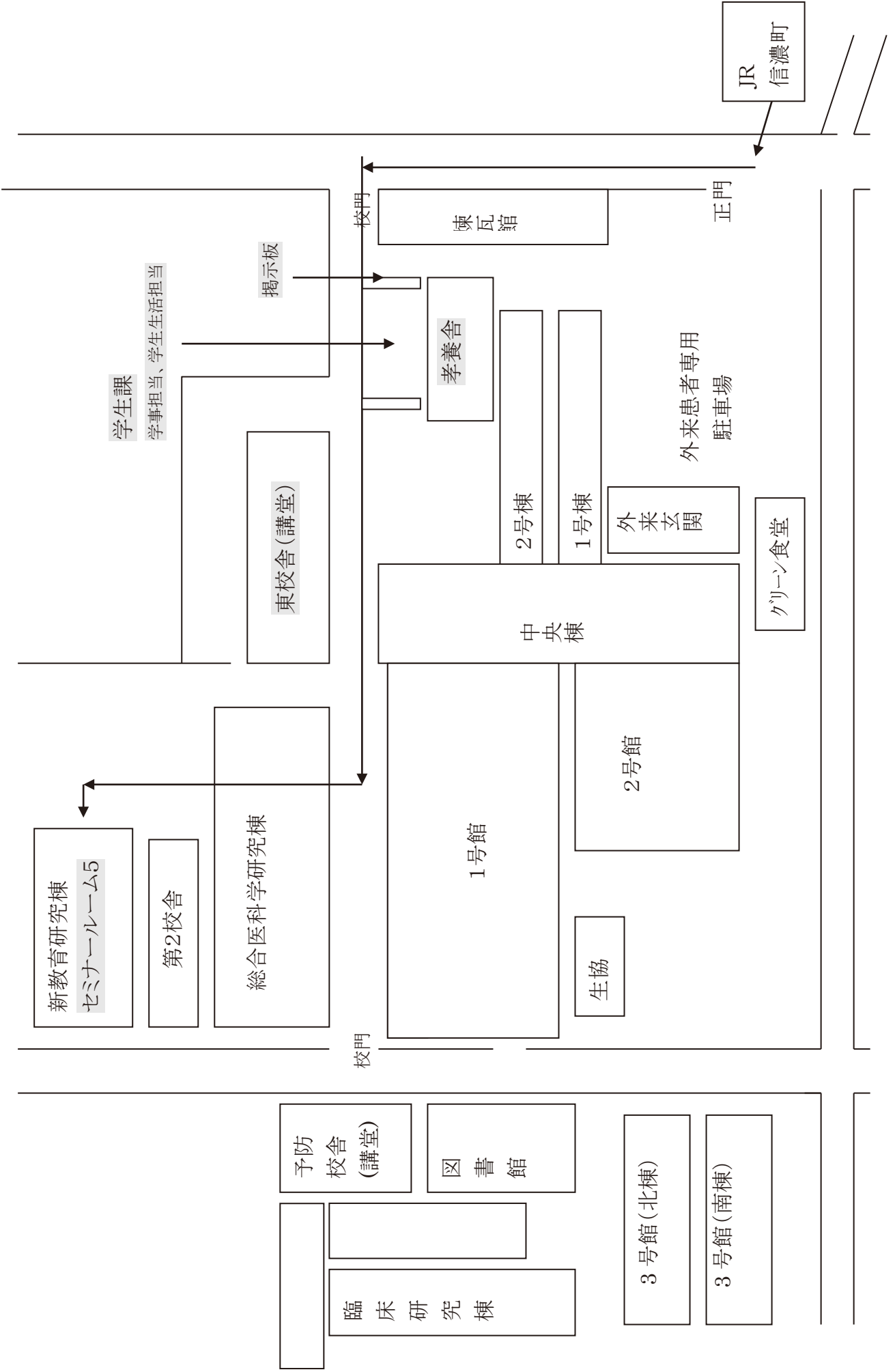
以上

※成績証明書を添付してください。

(学生課使用欄)

成績証明書	有 ・ 無
研究科委員会承認日	年 月 日
決定事項	科目： _____ 単位： _____ 評価： _____ 選択必修科目・選択
	科目： _____ 単位： _____ 評価： _____ 選択必修科目・選択
	科目： _____ 単位： _____ 評価： _____ 選択必修科目・選択
	科目： _____ 単位： _____ 評価： _____ 選択必修科目・選択
	科目： _____ 単位： _____ 評価： _____ 選択必修科目・選択
備考	

信濃町キャンパス 講堂・掲示板 配置図



振 鈴 表

第1時限 9:00～10:30

第2時限 10:45～12:15

第3時限 13:00～14:30

第4時限 14:45～16:15

第5時限 16:30～18:00

第6時限 18:10～19:40

第7時限 19:50～21:20